預言者伝（スィーラ）

第 9 巻

バドルの戦い

フルカーンの日：三百人の信仰者が千人と対峙した時



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 9 巻

バドルの戦い

フルカーンの日：三百人の信仰者が千人と対峙した時 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

وَلَقَدْ نَصَرَكُمُ ٱللَّهُ بِبَدْرٍ وَأَنتُمْ أَذِلَّةٌ ۖ فَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ

「アッラーは、あなたがたがバドルで微弱であったとき、確かに助けられた。だからアッラーを畏れなさい。きっとあなたがたに感謝の念が起きるであろう。」

イムラーン家章 3:123

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

バドルにおいて、弱かったしもべたちを助け、その日を「フルカーン（識別）の日」と名付けられたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 9 巻は、バドルの戦いを語ります。アブー・スフヤーンの隊商、運命を決めた協議、バドルの空の下でのアッラーの使徒 ﷺ の祈り、天使たちの援軍、そして捕虜についての教えです。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**夜明けのバドルの砂漠の谷**です。左右にはなだらかな砂丘と岩があり、谷底には**いくつかの古い石の井戸**、遠くには**ナツメヤシの木々**と古い家々が見えます。空では**金色の光**が流れる**雲**を突き抜け、天から地へ道を開くかのようです。

谷はバドルの戦場、「谷の手前の側」と「谷の向こう側」（戦利品章 8:42）を表し、井戸は両軍が奪い合ったバドルの泉を思い起こさせます。雲間からの光は、アッラーの助けと、次々に降りてきた天使たち（戦利品章 8:9）を表しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

バドルの戦い — はじめに

1. なぜバドルなのか — 巡礼章 22:39

2. サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ・ブン・ハラフ — 『サヒーフ・ブハーリー』3950

3. アブー・スフヤーンの隊商 — 戦利品章 8:7

4. クライシュ族の傲慢 — 戦利品章 8:47–48

5. 三百十数人 — 『サヒーフ・ブハーリー』3957

6. ウスマーンとルカイヤ — 『サヒーフ・ブハーリー』3130

7. 協議：ミクダードの言葉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3952

8. バドルの戦場 — 戦利品章 8:42；地図

9. 雨とまどろみ — 戦利品章 8:11

10. バドルでのアッラーの使徒ﷺの祈り — 『サヒーフ・ムスリム』1763

11. ジブリールと天使たち — 『サヒーフ・ブハーリー』3995

12. 最初の一騎打ち — 『サヒーフ・ブハーリー』3966

13. 「楽園へ向かって立ち上がれ」 — 『サヒーフ・ムスリム』1901

14. 一握りの砂 — 戦利品章 8:17

15. 二人の若者とアブー・ジャフル — 『サヒーフ・ブハーリー』3141

16. この共同体のファラオの最期 — 『サヒーフ・ブハーリー』3962

17. ビラールとウマイヤ・ブン・ハラフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2301

18. バドルの殉教者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2809

19. バドルの井戸のほとりで — 『サヒーフ・ブハーリー』3976

20. 捕虜と身代金 — 戦利品章 8:67–69

21. バドルの民の位置 — 『サヒーフ・ブハーリー』3992

22. 勝利の知らせ — 戦利品章 8:70

23. バドルの物語の典拠 — 図；表

24. バドルについてのクルアーンの節 — 戦利品章；イムラーン家章 3:123–127；月章 54:45

25. 戦利品と戦利品章の啓示 — 戦利品章 8:1、8:41；『サヒーフ・ムスリム』1748

26. バドルの戦場の人物たち — 両陣営の表

27. 捕虜の陰にある家族の物語 — 『スナン・アブー・ダーウード』2692；『サヒーフ・ブハーリー』3008

28. ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月の年表 — 表

29. バドルの戦いについてよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

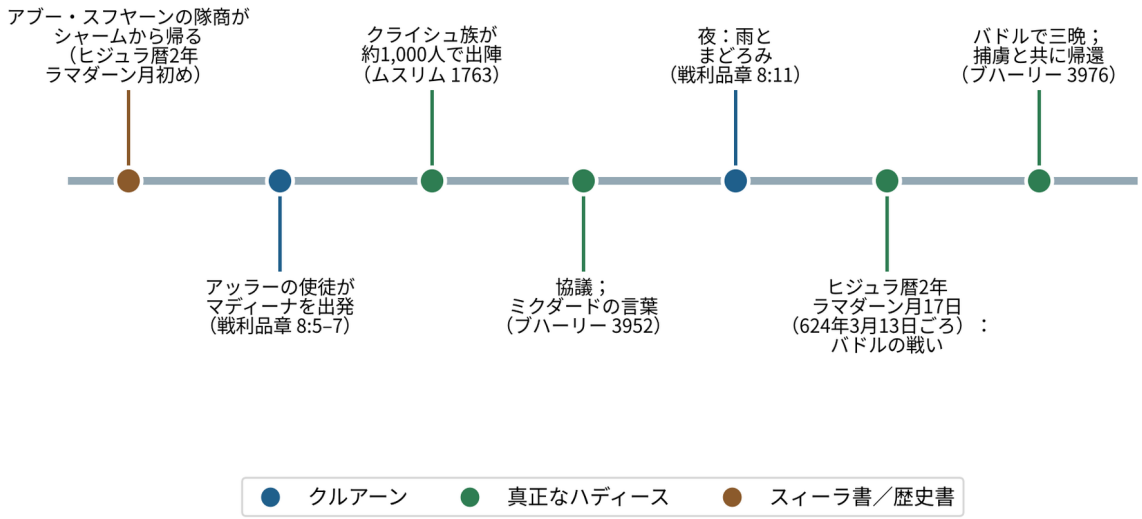
色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

バドルの戦い

『預言者伝』第8巻は、兄弟として結ばれ、カアバに向かって礼拝し、初めてラマダーンの斎戒を行うマディーナの社会で終わりました。その最初のラマダーンに、アッラーが「**ヤウム・アル＝フルカーン**」――真理と虚偽を分ける日（戦利品章 8:41）――と名付けられた出来事が起こります。それが**バドルの戦い**です。

およそ三百人の信仰者が、わずか二頭の馬で、完全武装したおよそ千人のクライシュ軍と向き合いました。クルアーンはこの出来事を**戦利品章**のほぼ全体で語り、真正なハディースはその瞬間瞬間を記録しています。アッラーの使徒 ﷺ の祈り、ミクダードの言葉、アブー・ジャフルを探した二人の若者、そして馬の手綱を握るジブリールです。

バドルの戦いの年表（ヒジュラ暦2年ラマダーン月）



日付は有名な説による。ラマダーン月19日または21日とする典拠もある（ウィキペディア「Battle of Badr」）。

図 1：バドルの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

なぜバドルなのか

マッカでの十三年間、ムスリムは**忍耐し、自制する**よう命じられていました。迫害され、追放され、財産を奪われても、反撃は許されませんでした。ヒジュラの後、アッラーは自衛のための最初の許可を下されました。

「戦いを仕掛けられた者たちには、（戦うことが）許される。それはかれらが不当な目に遭ったからである」。イブン・カスィールは、多くの初期の学者がこれを戦いについて最初に啓示された節と考えたと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』22:39。

理由	説明
マッカでの不正	ムスリムは迫害され、故郷から追い出された。
ムハージルーンの財産の没収	マッカに残した家と財産はクライシュ族に奪われた（スィーラ書）。
絶え間ない脅威	クライシュ族はマディーナを脅かし続けた（ブハーリー 3950）。
クライシュの隊商路	マッカからシャームへの交易隊商がマディーナの近くを通っていた。

教訓：イスラームにおける戦いは、復讐や略奪のためではなく、**不正を取り除く**ためのものです。その許可は、非常に長い忍耐の後に初めて与えられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ・ブン・ハラフ

バドル以前に、マディーナとマッカの緊張はすでに頂点に達していました。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、アウス族の長**サアド・ブン・ムアーズ**の勇気と、**予言**――アッラーの使徒 ﷺ の言葉が現実となったもの――を示す話を伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3950 番

حَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ عُثْمَانَ، حَدَّثَنَا شُرَيْحُ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ يُوسُفَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مَيْمُونٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ مَسْعُودٍ ـ رضى الله عنه ـ حَدَّثَ عَنْ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ، أَنَّهُ قَالَ كَانَ صَدِيقًا لأُمَيَّةَ بْنِ خَلَفٍ، وَكَانَ أُمَيَّةُ إِذَا مَرَّ بِالْمَدِينَةِ نَزَلَ عَلَى سَعْدٍ، وَكَانَ سَعْدٌ إِذَا مَرَّ بِمَكَّةَ نَزَلَ عَلَى أُمَيَّةَ، فَلَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ انْطَلَقَ سَعْدٌ مُعْتَمِرًا، فَنَزَلَ عَلَى أُمَيَّةَ بِمَكَّةَ، فَقَالَ لأُمَيَّةَ انْظُرْ لِي سَاعَةَ خَلْوَةٍ لَعَلِّي أَنْ أَطُوفَ بِالْبَيْتِ. فَخَرَجَ بِهِ قَرِيبًا مِنْ نِصْفِ النَّهَارِ فَلَقِيَهُمَا أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ يَا أَبَا صَفْوَانَ، مَنْ هَذَا مَعَكَ فَقَالَ هَذَا سَعْدٌ. فَقَالَ لَهُ أَبُو جَهْلٍ أَلاَ أَرَاكَ تَطُوفُ بِمَكَّةَ آمِنًا، وَقَدْ آوَيْتُمُ الصُّبَاةَ، وَزَعَمْتُمْ أَنَّكُمْ تَنْصُرُونَهُمْ وَتُعِينُونَهُمْ، أَمَا وَاللَّهِ لَوْلاَ أَنَّكَ مَعَ أَبِي صَفْوَانَ مَا رَجَعْتَ إِلَى أَهْلِكَ سَالِمًا. فَقَالَ لَهُ سَعْدٌ وَرَفَعَ صَوْتَهُ عَلَيْهِ أَمَا وَاللَّهِ لَئِنْ مَنَعْتَنِي هَذَا لأَمْنَعَنَّكَ مَا هُوَ أَشَدُّ عَلَيْكَ مِنْهُ طَرِيقُكَ عَلَى الْمَدِينَةِ. فَقَالَ لَهُ أُمَيَّةُ لاَ تَرْفَعْ صَوْتَكَ يَا سَعْدُ عَلَى أَبِي الْحَكَمِ سَيِّدِ أَهْلِ الْوَادِي. فَقَالَ سَعْدٌ دَعْنَا عَنْكَ يَا أُمَيَّةُ، فَوَاللَّهِ لَقَدْ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ إِنَّهُمْ قَاتِلُوكَ. قَالَ بِمَكَّةَ قَالَ لاَ أَدْرِي. فَفَزِعَ لِذَلِكَ أُمَيَّةُ فَزَعًا شَدِيدًا، فَلَمَّا رَجَعَ أُمَيَّةُ إِلَى أَهْلِهِ قَالَ يَا أُمَّ صَفْوَانَ، أَلَمْ تَرَىْ مَا قَالَ لِي سَعْدٌ قَالَتْ وَمَا قَالَ لَكَ قَالَ زَعَمَ أَنَّ مُحَمَّدًا أَخْبَرَهُمْ أَنَّهُمْ قَاتِلِيَّ، فَقُلْتُ لَهُ بِمَكَّةَ قَالَ لاَ أَدْرِي. فَقَالَ أُمَيَّةُ وَاللَّهِ لاَ أَخْرُجُ مِنْ مَكَّةَ، فَلَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ اسْتَنْفَرَ أَبُو جَهْلٍ النَّاسَ قَالَ أَدْرِكُوا عِيرَكُمْ. فَكَرِهَ أُمَيَّةُ أَنْ يَخْرُجَ، فَأَتَاهُ أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ يَا أَبَا صَفْوَانَ، إِنَّكَ مَتَى مَا يَرَاكَ النَّاسُ قَدْ تَخَلَّفْتَ وَأَنْتَ سَيِّدُ أَهْلِ الْوَادِي تَخَلَّفُوا مَعَكَ، فَلَمْ يَزَلْ بِهِ أَبُو

جَهْلٍ حَتَّى قَالَ أَمَّا إِذْ غَلَبْتَنِي، فَوَاللَّهِ لأَشْتَرِيَنَّ أَجْوَدَ بَعِيرٍ بِمَكَّةَ ثُمَّ قَالَ أُمَيَّةُ يَا أُمَّ صَفْوَانَ جَهِّزِينِي. فَقَالَتْ لَهُ يَا أَبَا صَفْوَانَ وَقَدْ نَسِيتَ مَا قَالَ لَكَ أَخُوكَ الْيَثْرِبِيُّ قَالَ لاَ، مَا أُرِيدُ أَنْ أَجُوزَ مَعَهُمْ إِلاَّ قَرِيبًا. فَلَمَّا خَرَجَ أُمَيَّةُ أَخَذَ لاَ يَنْزِلُ مَنْزِلاً إِلاَّ عَقَلَ بَعِيرَهُ، فَلَمْ يَزَلْ بِذَلِكَ حَتَّى قَتَلَهُ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ بِبَدْرٍ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنه から次のように伝えています。**サアドはウマイヤ・ブン・ハラフと親しい間柄でした。ウマイヤがマディーナを通る時はサアドの家に泊まり、サアドがマッカへ行く時はウマイヤの家に泊まりました。アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに来られた後、サアドはウムラに出かけ、ウマイヤの家に泊まりました。**かれはウマイヤに、聖モスクに人がいない時に巡回（タワーフ）に連れて行ってほしいと頼みました。昼ごろ、アブー・ジャフルが二人に出会い、サアドに言いました。「**おまえは安心してマッカで巡回しているが、おまえたちは宗教を変えた者たちをかくまっているではないか……。アッラーにかけて、もしアブー・サフワーン（ウマイヤ）と一緒でなければ、おまえは無事に家族のもとへ帰れなかっただろう。**」サアドは声を張り上げました。「**アッラーにかけて、もしおまえがこれを私に禁じるなら、私はおまえにとってもっと重いものを禁じよう。マディーナを通るおまえたちの（隊商の）道だ。**」ウマイヤは「この谷の民の長、アブー・アル＝ハカムに声を荒げるな」と言いました。サアドは言いました。「**放っておけ、ウマイヤよ。アッラーにかけて、私はアッラーの使徒 ﷺ が、かれらがおまえを殺すと言われるのを聞いた。**」ウマイヤはひどく恐れ、マッカから出ないと誓いました。しかしバドルの日、アブー・ジャフルはかれに隊商を守るため出陣するよう迫りました。妻は「ヤスリブのあなたの兄弟が言ったことを忘れたのですか」と諭しました。かれは「少しだけかれらと一緒に行くだけだ」と言いました。そして宿営するたびに、（すぐ帰れるよう）ラクダをつないでおきました。こうして**アッラーはかれをバドルで殺されるようにされた**のです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ウスマーン ← シュライフ・ブン・マスラマ ← イブラーヒーム・ブン・ユースフ ← その父（ユースフ・ブン・

イスハーク）← アブー・イスハーク ← アムル・ブン・マイムーン ← アブドゥッラー・ブン・マスウード ← サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 3950 番。訳は要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3950

ウマイヤの恐れ

ウマイヤ・ブン・ハラフは、かつてマッカの砂漠で**ビラール**を拷問した主人です（第 4 巻）。かれは**知っていた**のです――ムハンマド ﷺ の言葉が決して偽りでないことを。だからマッカから出ないと誓い、宿営するたびにすぐ逃げ帰れるようラクダをつないでおきました。それでもかれは出陣し、バドルで最期を迎えました。

教訓：イスラームの敵自身が**アッラーの使徒** ﷺ の真実性を認めていました。しかし傲慢がかれらの信仰を妨げたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・スフヤーンの隊商

ヒジュラ暦2年ラマダーン月の初め、**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**が率いる**クライシュ族の大隊商**が、商品を積んでシャームから帰ってくるところでした。ウィキペディアは、その価値をおよそ **5 万ディーナール**、護衛を約 70 人としています（ウィキペディア「Battle of Badr」）。アッラーの使徒 ﷺ は偵察のため**ブサイサ**を送り、その後教友たちと共に出発されました（『サヒーフ・ムスリム』1901）。

アッラーはムスリムが直面した選択をこう描かれます。「**アッラーがあなたがたに、二隊のうちの一隊（を与える）と約束された時を思い起こせ**」。あなたがたは武装していない方が自分たちのものになることを望んだ『タフスィール・イブン・カスィール』8:7。

> **スィーラの注：アブー・スフヤーン、援軍を求める**
>
> スィーラ書によれば、用心深いアブー・スフヤーンはムスリムの動きを察知し、**海岸の方へ道を変え**、**ダムダム・ブン・アムル・アル＝ギファーリー**を雇ってマッカへ急がせ、援軍を求めました。ダムダムは服を引き裂き、助けを叫びながら到着しました。クライシュ族は全軍で出陣しました。
>
> 隊商は結局**逃げ延びました**。アブー・スフヤーンは軍に引き返すよう伝言を送りましたが、**アブー・ジャフル**は言い張りました。「バドルに着いて三日間とどまり、ラクダを屠り、酒を飲み、アラブ中に名を轟かせるまで、われわれは帰らない。」
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』バドルの戦いの章。

教訓：ムスリムは**隊商**のために出かけましたが、アッラーは真理を確立する**戦い**を望まれました。人間の計画は必ずしもアッラーの定めと同じではありません。そしてアッラーの定めの方がより良いのです。

クライシュ族の傲慢

隊商が無事だという知らせが届くと、クライシュ族の一部は帰ろうとしました。しかし前の章で述べたように、**アブー・ジャフル**はバドルへ進むことに固執しました。かれらは**大いに傲慢に**、歌い手と屠るためのラクダを連れて、アラブ中に見せびらかすために出発しました。アッラーはかれらの姿を述べ、信仰者に警告されます。

「あなたがたは、得意になって人びとに見せびらかすため自分の家を出て行った者のようであってはならない」『タフスィール・イブン・カスィール』8:47。

イブン・カスィールは、この節がバドルに出陣した**クライシュ族の多神教徒**を指すと説明しています。教訓：信仰者の行いは**アッラーのため**になされるもので、人に褒められるためではありません。傲慢と見せびらかしは敵の性質であって、アッラーの軍勢の性質ではありません。

その傲慢の背後には、さらに邪悪なささやきがありました。**「今日、人間の中であなたがたに勝てる者はいない。わたしはあなたがたの保護者である」**『タフスィール・イブン・カスィール』8:48。

スィーラの注：スラーカの姿をした悪魔

イブン・カスィールは、イブン・アッバースら注釈学者の伝承として、**イブリース**がキナーナ族の長**スラーカ・ブン・マーリク**の姿でクライシュ族のもとに来て、背後からのキナーナ族の攻撃からかれらを守ると約束したと伝えています。かれは**天使たち**が降りてくるのを見ると、節に述べられているように背を向けて逃げました。**「わたしには、あなたがたに見えないものが見える。」**

この詳細は**注釈書の伝承**です。確かなのは節そのものが述べていること、すなわち悪魔がかれらを欺き、そして見捨てたということです。

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』8:48。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/48

ムスリム側の重い心

クルアーンはまた、ムスリムの一部の気持ちを率直に語ります。「**あなたの主が、真理によってあなたを家から出されたように。信者の一部は（それを）本当に嫌っていた**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:5。

かれらは隊商を追うために出たのであって、三倍もの軍と戦うためではありませんでした。アッラーはその気持ちを隠さず、**心が嫌うもの**が**大きな善**となりうることを示されました。教訓：信仰とは恐れがないことではなく、心が重くても**従い続ける**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三百十数人

バドルのムスリムは何人だったのでしょうか。バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、参戦した教友たちからこう聞きました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3957 番

حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ خَالِدٍ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ حَدَّثَنِي أَصْحَابُ، مُحَمَّدٍ صلى الله عليه وسلم مِمَّنْ شَهِدَ بَدْرًا أَنَّهُمْ كَانُوا عِدَّةَ أَصْحَابِ طَالُوتَ الَّذِينَ جَازُوا مَعَهُ النَّهَرَ، بِضْعَةَ عَشَرَ وَثَلاَثَمِائَةٍ. قَالَ الْبَرَاءُ لاَ وَاللَّهِ مَا جَاوَزَ مَعَهُ النَّهَرَ إِلاَّ مُؤْمِنٌ.

訳：

バラーウ رضى الله عنه は言った。**バドルに参戦したムハンマド ﷺ の教友たちは私に、かれらの数はターラートと共に川を渡ったかれの仲間の数と同じ、三百十数人だったと語った。アッラーにかけて、かれと共に川を渡ったのは信仰者だけであった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アムル・ブン・ハーリド ← ズハイル ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルの民の数の章、ハディース第 3957 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3957

バラーウはまた、自分とイブン・ウマルはバドルに参加するには若すぎるとされたこと、ムハージルーンは**六十数人**、アンサールは**二百四十数人**だったことを述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3956）。クライシュ軍はおよそ**千人**でした（『サヒーフ・ムスリム』1763）。

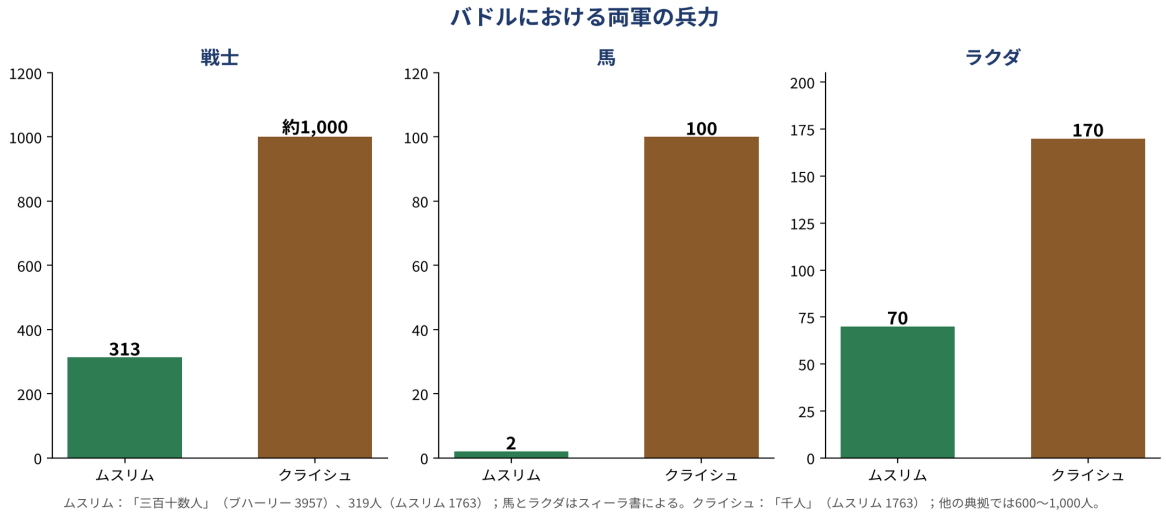


図 2：バドルにおける両軍の兵力の比較。

ターラートの軍のように

ターラートの軍との比較は、雌牛章の物語を思い起こさせます。信仰するわずかな者だけが川を渡り、こう言いました。「**さてターラートが軍を率いて出発した時**」.....「アッラーの御許しにより、少数の一隊で大軍に打ち勝ったことがどれほど多いことか」『タフスィール・イブン・カスィール』2:249。

スィーラの注：三人で一頭のラクダ

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は伝えています。「バドルの日、**三人ごとに一頭のラクダに交代で乗りました**。アブー・ルバーバとアリー・ブン・アビー・ターリブは、アッラーの使徒 ﷺ とラクダを分け合っていました。アッラーの使徒が歩く番になると、二人は『私たちがあなたの代わりに歩きます』と言いました。するとアッラーの使徒は言われました。**『あなたがた二人は私より強くはない。私もあなたがた二人以上に報奨を必要としていないわけではない。』**」

『ムスナド・アフマド』の伝承（一部の学者によればハサン）：従う者たちと**苦労を分かち合う**指導者の姿です。

参照：

『ムスナド・アフマド』（アブドゥッラー・ブン・マスウードの伝承）。

スィーラの注：泣いたウマイル・ブン・アビー・ワッカース

スィーラ書によれば、サアド・ブン・アビー・ワッカースのまだ少年だった弟**ウマイル**は、帰されることを恐れて隠れていました。帰るよう言われると、かれは**泣き出し**、アッラーの使徒はかれの参加を許されました。ウマイルはおよそ十六歳でバドルにおいて殉教しました。

参照：

イブン・サアド『タバカート・アル＝クブラー』；ハーキム『アル＝ムスタドラク』。

ウスマーンとルカイヤ

バドルに参加したいと願った教友の全員が参加できたわけではありません。**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه は、尊い理由でマディーナに残りました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3130 番

حَدَّثَنَا مُوسَى، حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ مَوْهَبٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ إِنَّمَا تَغَيَّبَ عُثْمَانُ عَنْ بَدْرٍ، فَإِنَّهُ كَانَتْ تَحْتَهُ بِنْتُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَكَانَتْ مَرِيضَةً. فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنَّ لَكَ أَجْرَ رَجُلٍ مِمَّنْ شَهِدَ بَدْرًا وَسَهْمَهُ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。**ウスマーンがバドルに参加しなかったのは、アッラーの使徒 ﷺ の娘であるかれの妻が病気だったからである。預言者 ﷺ はかれに言われた。「あなたには、バドルに参加した者と同じ報奨と（戦利品の）分け前がある。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー（・ブン・イスマーイール） ← アブー・アワーナ ← ウスマーン・ブン・マウハブ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、ハディース第 3130 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3130

ウスマーンの妻は**アッラーの使徒** ﷺ の娘ルカイヤでした。軍が出発する時、彼女は重い病にあり、アッラーの使徒 ﷺ はウスマーンに看病を命じられました。スィーラ書によれば、ルカイヤは軍がまだバドルにいる間に**亡くなり**、勝利の知らせがマディーナに届いたのは、ちょうど彼女の埋葬を終えた時でした。その後アッラーの使徒 ﷺ は、ウスマーンをもう一人の娘ウンム・クルスームと結婚させ、ウスマーンは**ズー・アン＝ヌーライン**（二つの光の持ち主）と呼ばれるようになりました。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ の命により病気の家族を看ることは、戦場で戦う者と同じ報奨が与えられる**服従**です。行いの価値を決めるのは意図と服従です。

協議：ミクダードの言葉

隊商が逃れ、クライシュ軍が迫っているという知らせが届くと、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちと**協議**されました。戦いを強いることはせず、かれらの考えを聞こうとされたのです。イブン・マスウード رضي الله عنه は忘れられない瞬間を目撃しました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3952 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ مُخَارِقٍ، عَنْ طَارِقِ بْنِ شِهَابٍ، قَالَ سَمِعْتُ ابْنَ مَسْعُودٍ، يَقُولُ شَهِدْتُ مِنَ الْمِقْدَادِ بْنِ الأَسْوَدِ مَشْهَدًا، لأَنْ أَكُونَ صَاحِبَهُ أَحَبُّ إِلَىَّ مِمَّا عُدِلَ بِهِ، أَتَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ يَدْعُو عَلَى الْمُشْرِكِينَ فَقَالَ لاَ نَقُولُ كَمَا قَالَ قَوْمُ مُوسَى {اذْهَبْ أَنْتَ وَرَبُّكَ فَقَاتِلاَ} وَلَكِنَّا نُقَاتِلُ عَنْ يَمِينِكَ وَعَنْ شِمَالِكَ وَبَيْنَ يَدَيْكَ وَخَلْفَكَ. فَرَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم أَشْرَقَ وَجْهُهُ وَسُرَّهُ. يَعْنِي قَوْلَهُ.

訳：

イブン・マスウード رضي الله عنه は言った。**私はミクダード・ブン・アル＝アスワドのある場面を目撃した。もし私がその当事者であったなら、それは何よりも好ましいことであっただろう。かれは、多神教徒に対して祈っておられた預言者 ﷺ のもとに来て言った。「私たちは、ムーサーの民が言ったように『あなたとあなたの主とで行って戦いなさい』とは言いません。私たちはあなたの右で、左で、前で、後ろで戦います。」**私は預言者 ﷺ のお顔が**輝く**のを見た。その言葉はかれを喜ばせたのである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← イスラーイール ← ムハーリク ← ターリク・ブン・シハーブ ← イブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 3952 番。引用された節：食卓章 5:24。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3952

スィーラの注：サアド・ブン・ムアーズの言葉

スィーラ書によれば、アブー・バクル、ウマル、ミクダード――いずれもムハージルーン――が発言した後、アッラーの使徒 ﷺ は「人びとよ、私に意見を言いなさい」と言われました。アカバの誓いでマディーナの中でのみ守ると約束していた**アンサール**の考えを知りたかったからです。

サアド・ブン・ムアーズが立ち上がり、こう言いました。「私たちはあなたを信じ、あなたを真実と認めました……。あなたを真理と共に遣わされた方にかけて、もしあなたが私たちを連れてこの海を渡られるなら、私たちもあなたと共に飛び込みます。」アッラーの使徒 ﷺ のお顔は輝き、「進め、そして喜べ」と言われました。『サヒーフ・ムスリム』では、同様の言葉は**サアド・ブン・ウバーダ**のものとされています（『サヒーフ・ムスリム』1779）。

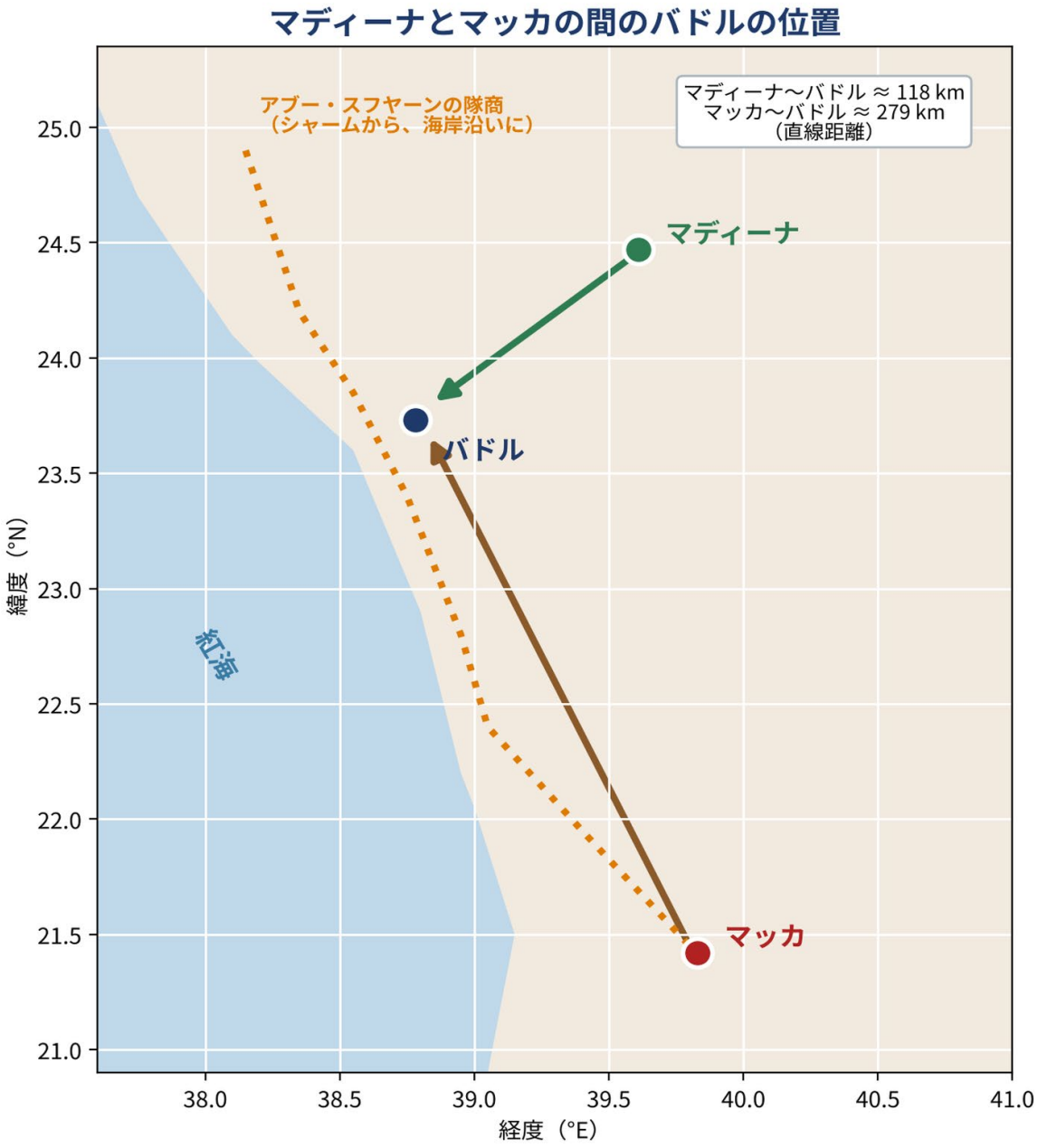
参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ムスリム』1779。https://sunnah.com/muslim:1779

教訓：啓示を受ける使徒でありながら、かれは**協議**されました。良い指導者は、ムハージルーンとアンサールの、すべての声に耳を傾けるのです。

バドルの戦場

バドルは、いくつかの井戸のある谷で、マッカとシャームを結ぶ隊商路の上、マディーナの南西にありました。アラブの宿営地であり、年に一度の市が開かれる場所でもありました。



略図。座標と海岸線はおおよそのもの。

図 3：マディーナとマッカの間のバドルの位置（略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クルアーンは、両軍と隊商の位置を正確に描いています。「**あなたがたが谷のこちら側にいて、かれらが谷の向こう側にいた時**」、隊商はあなたがたより低い所（海岸側）にいた『タフスィール・イブン・カスィール』8:42。

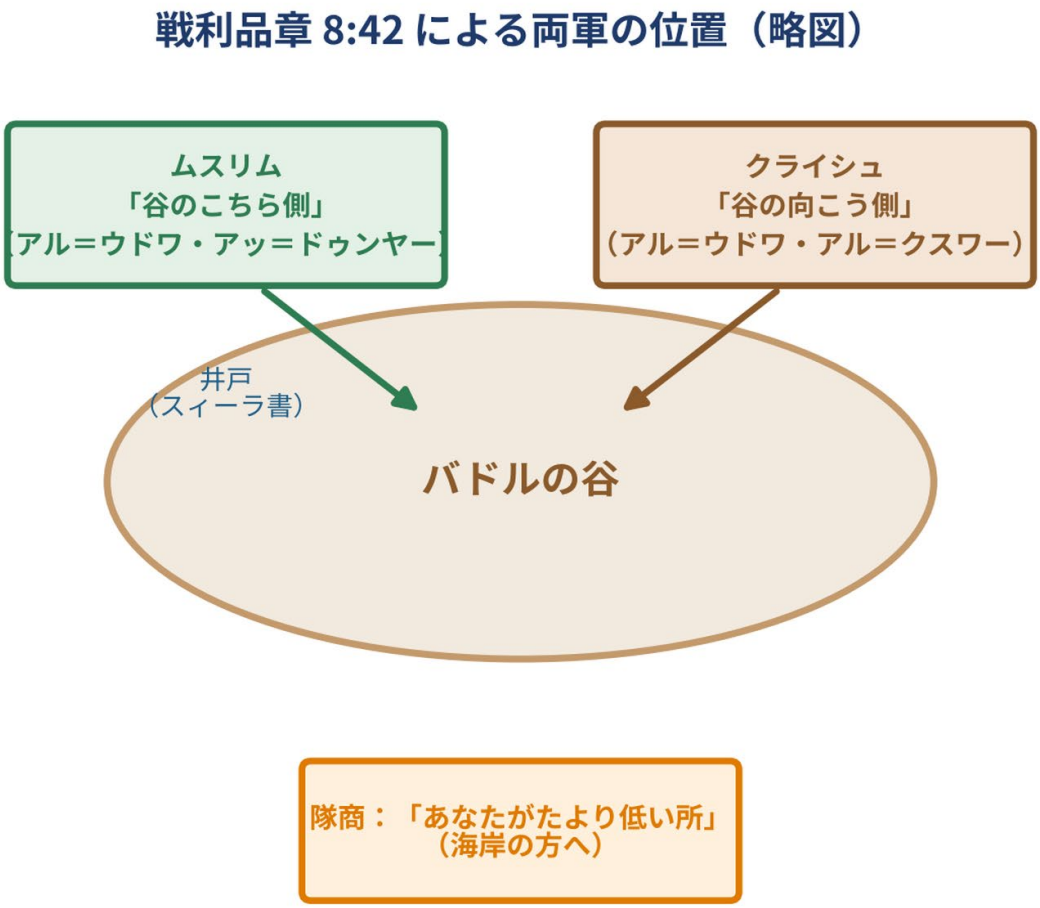


図 4：戦利品章 8:42 による両軍の位置（略図）。

スィーラの注：フバーブ・ブン・アル＝ムンズィルの助言

イブン・イスハークによれば、アッラーの使徒 ﷺ は初め最初の井戸のそばに宿営されました。**フバーブ・ブン・アル＝ムンズィル**が尋ねました。「アッラーの使徒よ、この場所はアッラーがあなたに定められたものですか。それとも意見と戦いと戦術によるものですか。」アッラーの使徒は「意見と戦いと戦術によるものだ」と答えられました。フバーブは、**敵に最も近い井戸**を押さえ、ほかの井戸をふさぎ、貯水池を造って、ムスリムは水を飲めるが敵は飲めないようにすることを提案しました。アッラーの使徒 ﷺ はその提案を受け入れられました。

この話はスィーラ書で有名ですが、一部のハディース研究者によれば、その伝承経路は**確かではありません**。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ウィキペディア「Battle of Badr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

教訓（フバーブの話を受け入れる場合）：アッラーの使徒 ﷺ は、従わなければならない**啓示**と、話し合うことのできる**意見**とを区別し、教友のより良い提案を受け入れられました。

雨とまどろみ

戦いの前夜、数の少ないムスリムは不安に包まれていたはずです。しかしアッラーは、クルアーンに述べられている**二つの恵み**を下されました。

「（思い起こせ）かれは御自身からの安心として、あなたがたにまどろみを催させ」、天から雨を降らせてあなたがたを清め……足場を固められた『タフスィール・イブン・カスィール』8:11。

恵み	その結果
まどろみ（ヌアース）	安らぎ。戦いの前の、心身を回復させる眠り。
降水量	清め。悪魔のささやきを取り除く。
地面が固まる	ムスリム側の砂が固まり、足がしっかりと立つ。
心が強められる	「あなたがたの心を強め」――戦いの前の勇気。

スィーラの注：アリーシュ――指揮を執られたアッラーの使徒ﷺ

スィーラ書によれば、サアド・ブン・ムアーズの提案で、戦場を見渡す高台に**アリーシュ**（日よけの小屋）が建てられ、アッラーの使徒 ﷺ はそこで軍を整え、祈られ、アブー・バクルがそばにいました。『サヒーフ・ブハーリー』は、バドルの日にアッラーの使徒が**クッバ**（天幕）の中から祈られたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』3953）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』3953。https://sunnah.com/bukhari:3953

バドルでのアッラーの使徒ﷺの祈り

ラマダーン月 17 日の朝、戦いが始まる前、アッラーの使徒ﷺは釣り合わない両軍を見渡し、キブラに向かって**ひたすら祈られました**。ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه はその瞬間を目撃しました。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1763 番

حَدَّثَنَا هَنَّادُ بْنُ السَّرِيِّ، حَدَّثَنَا ابْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ عِكْرِمَةَ بْنِ عَمَّارٍ، حَدَّثَنِي سِمَاكٌ، الْحَنَفِيُّ قَالَ سَمِعْتُ ابْنَ عَبَّاسٍ، يَقُولُ حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ، قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ ح وَحَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ - وَاللَّفْظُ لَهُ - حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ يُونُسَ الْحَنَفِيُّ حَدَّثَنَا عِكْرِمَةُ بْنُ عَمَّارٍ حَدَّثَنِي أَبُو زُمَيْلٍ - هو سِمَاكٌ الْحَنَفِيُّ - حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبَّاسٍ قَالَ حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ نَظَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْمُشْرِكِينَ وَهُمْ أَلْفٌ وَأَصْحَابُهُ ثَلاَثُمِائَةٍ وَتِسْعَةَ عَشَرَ رَجُلاً فَاسْتَقْبَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْقِبْلَةَ ثُمَّ مَدَّ يَدَيْهِ فَجَعَلَ يَهْتِفُ بِرَبِّهِ اللَّهُمَّ أَنْجِزْ لِي مَا وَعَدْتَنِي اللَّهُمَّ آتِ مَا وَعَدْتَنِي اللَّهُمَّ إِنْ تَهْلِكْ هَذِهِ الْعِصَابَةُ مِنْ أَهْلِ الإِسْلاَمِ لاَ تُعْبَدْ فِي الأَرْضِ. فَمَازَالَ يَهْتِفُ بِرَبِّهِ مَادًّا يَدَيْهِ مُسْتَقْبِلَ الْقِبْلَةِ حَتَّى سَقَطَ رِدَاؤُهُ عَنْ مَنْكِبَيْهِ فَأَتَاهُ أَبُو بَكْرٍ فَأَخَذَ رِدَاءَهُ فَأَلْقَاهُ عَلَى مَنْكِبَيْهِ ثُمَّ الْتَزَمَهُ مِنْ وَرَائِهِ. وَقَالَ يَا نَبِيَّ اللَّهِ كَذَاكَ مُنَاشَدَتُكَ رَبَّكَ فَإِنَّهُ سَيُنْجِزُ لَكَ مَا وَعَدَكَ فَأَنْزَلَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { إِذْ تَسْتَغِيثُونَ رَبَّكُمْ فَاسْتَجَابَ لَكُمْ أَنِّي مُمِدُّكُمْ بِأَلْفٍ مِنَ الْمَلاَئِكَةِ مُرْدِفِينَ} فَأَمَدَّهُ اللَّهُ بِالْمَلاَئِكَةِ. قَالَ أَبُو زُمَيْلٍ فَحَدَّثَنِي ابْنُ عَبَّاسٍ قَالَ بَيْنَمَا رَجُلٌ مِنَ الْمُسْلِمِينَ يَوْمَئِذٍ يَشْتَدُّ فِي أَثَرِ رَجُلٍ مِنَ الْمُشْرِكِينَ أَمَامَهُ إِذْ سَمِعَ ضَرْبَةً بِالسَّوْطِ فَوْقَهُ وَصَوْتَ الْفَارِسِ يَقُولُ أَقْدِمْ حَيْزُومُ. فَنَظَرَ إِلَى الْمُشْرِكِ أَمَامَهُ خَرَّ مُسْتَلْقِيًا فَنَظَرَ إِلَيْهِ فَإِذَا هُوَ قَدْ خُطِمَ أَنْفُهُ وَشُقَّ وَجْهُهُ كَضَرْبَةِ السَّوْطِ فَاخْضَرَّ ذَلِكَ أَجْمَعُ. فَجَاءَ الأَنْصَارِيُّ فَحَدَّثَ بِذَلِكَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ صَدَقْتَ ذَلِكَ مِنْ مَدَدِ السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ. فَقَتَلُوا يَوْمَئِذٍ سَبْعِينَ وَأَسَرُوا سَبْعِينَ. قَالَ أَبُو زُمَيْلٍ قَالَ ابْنُ عَبَّاسٍ فَلَمَّا أَسَرُوا الأُسَارَى قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لأَبِي بَكْرٍ وَعُمَرَ مَا تَرَوْنَ فِي هَؤُلاَءِ الأُسَارَى. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ يَا نَبِيَّ

اللَّهِ هُمْ بَنُو الْعَمِّ وَالْعَشِيرَةِ أَرَى أَنْ تَأْخُذَ مِنْهُمْ فِدْيَةً فَتَكُونُ لَنَا قُوَّةً عَلَى الْكُفَّارِ فَعَسَى اللَّهُ أَنْ يَهْدِيَهُمْ لِلإِسْلاَمِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا تَرَى يَا ابْنَ الْخَطَّابِ. قُلْتُ لاَ وَاللَّهِ يَا رَسُولَ اللَّهِ مَا أَرَى الَّذِي رَأَى أَبُو بَكْرٍ وَلَكِنِّي أَرَى أَنْ تُمَكِّنَّا فَنَضْرِبَ أَعْنَاقَهُمْ فَتُمَكِّنَ عَلِيًّا مِنْ عَقِيلٍ فَيَضْرِبَ عُنُقَهُ وَتُمَكِّنِّي مِنْ فُلاَنٍ - نَسِيبًا لِعُمَرَ - فَأَضْرِبَ عُنُقَهُ فَإِنَّ هَؤُلاَءِ أَئِمَّةُ الْكُفْرِ وَصَنَادِيدُهَا فَهَوِيَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا قَالَ أَبُو بَكْرٍ وَلَمْ يَهْوَ مَا قُلْتُ فَلَمَّا كَانَ مِنَ الْغَدِ جِئْتُ فَإِذَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ قَاعِدَيْنِ يَبْكِيَانِ قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَخْبِرْنِي مِنْ أَيِّ شَىْءٍ تَبْكِي أَنْتَ وَصَاحِبُكَ فَإِنْ وَجَدْتُ بُكَاءً بَكَيْتُ وَإِنْ لَمْ أَجِدْ بُكَاءً تَبَاكَيْتُ لِبُكَائِكُمَا. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَبْكِي لِلَّذِي عَرَضَ عَلَىَّ أَصْحَابُكَ مِنْ أَخْذِهِمُ الْفِدَاءَ لَقَدْ عُرِضَ عَلَىَّ عَذَابُهُمْ أَدْنَى مِنْ هَذِهِ الشَّجَرَةِ. شَجَرَةٍ قَرِيبَةٍ مِنْ نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. وَأَنْزَلَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { مَا كَانَ لِنَبِيٍّ أَنْ يَكُونَ لَهُ أَسْرَى حَتَّى يُثْخِنَ فِي الأَرْضِ} إِلَى قَوْلِهِ { فَكُلُوا مِمَّا غَنِمْتُمْ حَلاَلاً طَيِّبًا} فَأَحَلَّ اللَّهُ الْغَنِيمَةَ لَهُمْ.

訳：

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は言った。**バドルの日、アッラーの使徒 ﷺ は千人の多神教徒を見られた。一方、かれの教友は三百十九人であった。アッラーの預言者 ﷺ はキブラに向かい、両手を差し伸べて、声を上げて主に祈られた。「アッラーよ、私に約束されたことを果たしてください。アッラーよ、私に約束されたものをお与えください。アッラーよ、もしイスラームの民のこの小さな一団を滅ぼされるなら、あなたは地上で崇められなくなるでしょう。」**かれはキブラに向かって両手を差し伸べたまま祈り続け、ついに肩から外套が落ちた。アブー・バクルが来て外套を拾い、かれの肩に掛け直し、後ろから抱きしめて言った。**「アッラーの預言者よ、主への懇願はもう十分です。主は必ずあなたに約束されたことを果たされます。」**そこでアッラーは啓示された。{あなたがたが主に助けを求めた時、かれはこう答えられた。「わたしは千の天使を次々に送って、あなたがたを助けるであろう」}（戦利品章 8:9）。（イブン・アッバースは続けて、あるムスリムが天使の騎手の声**「進め、ハイズームよ！」**を聞いた話を伝え、アッラーの使徒 ﷺ は**「それは第三の天からの援軍だ」**と言われた。ムスリ

ムは七十人を殺し、七十人を捕虜にした。その後アッラーの使徒 ﷺ は捕虜についてアブー・バクルとウマルに相談された。アブー・バクルは身代金を、ウマルは処刑を提案し、アッラーの使徒はアブー・バクルの意見を選ばれ、戦利品章 8:67–69 が下された。）

伝承経路： イマーム・ムスリムは二つの経路で伝える：ハンナード・ブン・アッ＝サリー ← イブン・アル＝ムバーラク；およびズハイル・ブン・ハルブ ← ウマル・ブン・ユーヌス・アル＝ハナフィー――いずれもイクリマ・ブン・アンマール ← アブー・ズマイル・スィマーク・アル＝ハナフィー ← イブン・アッバース ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、バドルにおける天使の援助と戦利品の許可の章、ハディース第 1763 番。後半の訳は要約。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1763

戦利品章 8:9–10

إِذْ تَسْتَغِيثُونَ رَبَّكُمْ فَٱسْتَجَابَ لَكُمْ أَنِّى مُمِدُّكُم بِأَلْفٍ مِّنَ ٱلْمَلَٰٓئِكَةِ مُرْدِفِينَ ﴿٩﴾

あなたがたが主に援助を歎願した時を思いなさい。その時あなたがたに答えられた。『われは、次ぎ次ぎに来る一千の天使であなたがたを助けるであろう。』

وَمَا جَعَلَهُ ٱللَّهُ إِلَّا بُشْرَىٰ وَلِتَطْمَئِنَّ بِهِۦ قُلُوبُكُمْ ۚ وَمَا ٱلنَّصْرُ إِلَّا مِنْ عِندِ ٱللَّهِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿١٠﴾

アッラーは、只これをあなたがたへの吉報となされ、あなたがたの心をそれで安らげられる。勝利はアッラーからだけ（来る）。アッラーは偉力ならびなく英明な御方であられる。

訳：三田了一 — quran.com/8:9-10

「あなたは崇められなくなるでしょう……」

この祈りは、その日にかかっていたものが**いかに大きかったか**を示しています。この小さな一団が滅びれば、地上でアッラーを崇める者はいなくなってしまうのです。アッラーの使徒は**外套が落ちるほど**祈り、アブー・バクルがかれをなだめました。学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が**アッラーを畏れ、ひたすら望みをかけて**祈られたのであり、アブー・バクルはアッラーの約束への確信から語ったのだと説明しています。どちらも称賛に値します。

イブン・アッバースによれば、アッラーの使徒はその後、天幕から出て来られ、こう唱えられました。「**この群衆は敗走し、背を向けるであろう**」（月章 54:45）（『サヒーフ・ブハーリー』3953）。この節は何年も前にマッカで啓示されたもので、今それが現実となったのです。

ジブリールと天使たち

アッラーはその祈りに**天使たちの援軍**で応えられました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がその長を見ておられます。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3995 番

حَدَّثَنِي إِبْرَاهِيمُ بْنُ مُوسَى، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، حَدَّثَنَا خَالِدٌ، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ يَوْمَ بَدْرٍ هَذَا جِبْرِيلُ آخِذٌ بِرَأْسِ فَرَسِهِ ـ عَلَيْهِ أَدَاةُ الْحَرْبِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はバドルの日に言われた。「**これはジブリールだ。馬の頭（手綱）を握り、戦いの武具を身に着けている。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イブラーヒーム・ブン・ムーサー ← アブドゥル・ワッハーブ ← ハーリド（・アル＝ハッザー） ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルに参加した天使の章、ハディース第 3995 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3995

アッラーは天使たちの務めも述べられました。「**本当にわれはあなたがたと共にいる。だから信仰する者たちを堅固にしなさい**」。わたしは不信心な者たちの心に恐怖を投げ込むであろう『タフスィール・イブン・カスィール』8:12。

「進め、ハイズームよ！」

ムスリム 1763 のハディースで、イブン・アッバースはこう語っています。ある多神教徒を追っていたムスリムが、頭上で**鞭の鳴る音**と、騎手が「**進め、ハイズームよ！**」と言う声を聞きました。するとその多神教徒は突然あお向けに倒れ、鼻は傷

つき、顔は鞭で打たれたように裂けていました。アッラーの使徒 ﷺ にこのことが語られると、「**その通りだ。それは第三の天からの援軍だ**」と言われました。学者の説明によれば、**ハイズーム**はジブリールの馬の名です。

教訓：勝利は**アッラーから**来るものであり、天使はかれの軍勢です。それでも教友たちは**自分の手で戦いました**。天からの助けは、地上で努力する者に下るのです。

しかしアッラーは、心が天使にさえ頼りきることのないよう諭されます。「**勝利はただアッラーの御許からだけである**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:10。

最初の一騎打ち

アラブの慣習では、戦いは**一騎打ち**で始まりました。クライシュ族の三人の勇士――**ウトバ・ブン・ラビーア**、その兄弟**シャイバ**、そしてその息子**ワリード**――が進み出ました。アッラーの使徒 ﷺ は、自らの近親から三人を送られました。**ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ**、**アリー・ブン・アビー・ターリブ**、そして**ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス**です。

アブー・ザッル رضي الله عنه は、「**これら二つの論争者は、主について論争する**」（巡礼章 22:19）という節がこの六人、すなわちシャイバ、ウトバ、ワリードと向き合ったアリー、ハムザ、ウバイダについて啓示されたと誓っています（『サヒーフ・ブハーリー』3966）。アリーは言いました。「**審判の日に、慈悲深き御方の御前で弁明のためにひざまずく最初の者は私であろう**」（『サヒーフ・ブハーリー』3965）。

イスラームの戦士	クライシュ側の相手とその結果（スィーラ書）
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	シャイバ・ブン・ラビーア――討たれる
アリー・ブン・アビー・ターリブ	ワリード・ブン・ウトバ――討たれる
ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス	ウトバ・ブン・ラビーア――討たれる；ウバイダは重傷を負い、後に殉教

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、**自らの近親**を最前線に送られました。指導者は、自分の家族を守りながら他人を危険にさらすことはしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「楽園へ向かって立ち上がれ」

戦いが始まると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを励まして言われました。**「天と地ほどの広さの楽園へ向かって立ち上がれ。」**アンサールの**ウマイル・ブン・アル＝フマーム** رضي الله عنه が「天と地ほどの広さですか」と尋ねると、アッラーの使徒は「そうだ」と答えられました。かれは「バッフ、バッフ！」（感嘆の言葉）と言いました。その住人になりたいと願ったからです。かれはナツメヤシの実をいくつか取り出して食べ始め、そして言いました。**「もしこのナツメヤシを食べ終わるまで生きていたら、それはなんと長い人生だろう。」**そしてナツメヤシを投げ捨て、**殉教**するまで戦いました（『サヒーフ・ムスリム』1901）。

教訓：来世への確信は、信仰者の目に現世を小さく映します。楽園が目の前にある時、わずかなナツメヤシを食べる時間さえ**長すぎる**と感じられるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

一握りの砂

クルアーンは、戦いの中の一つの驚くべき出来事を述べています。

「あなたが投げた時、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられたのである」『タフスィール・イブン・カスィール』8:17。

イブン・カスィールら注釈学者によれば、バドルの日、アッラーの使徒 ﷺ は**一握りの砂（または小石）**を取って敵の方へ投げ、「顔よ、醜くなれ」と言われました。その砂は敵の一人ひとりの目に届き、かれらは目をこすることに追われて退きました。この節は、その投擲を届かせたのは**アッラー**であることを明らかにしています。

同じ節は、**「あなたがたがかれらを殺したのではなく、アッラーがかれらを殺されたのである」**で始まります。教訓：信仰者は**努力する**けれども、**成功をアッラーに帰する**のであって、自分の力に帰するのではありません。これが勝利の後の傲慢を防ぐのです。

二人の若者とアブー・ジャフル

バドルで最も心を打つ物語の一つは、「この共同体のファラオ」**アブー・ジャフル**を探した**アンサールの二人の若者**の話です。アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه がこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3141 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ الْمَاجِشُونِ، عَنْ صَالِحِ بْنِ إِبْرَاهِيمَ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَوْفٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ، قَالَ بَيْنَا أَنَا وَاقِفٌ، فِي الصَّفِّ يَوْمَ بَدْرٍ فَنَظَرْتُ عَنْ يَمِينِي، وَشِمَالِي، فَإِذَا أَنَا بِغُلاَمَيْنِ، مِنَ الأَنْصَارِ حَدِيثَةٍ أَسْنَانُهُمَا، تَمَنَّيْتُ أَنْ أَكُونَ بَيْنَ أَضْلَعَ مِنْهُمَا، فَغَمَزَنِي أَحَدُهُمَا فَقَالَ يَا عَمِّ، هَلْ تَعْرِفُ أَبَا جَهْلٍ قُلْتُ نَعَمْ، مَا حَاجَتُكَ إِلَيْهِ يَا ابْنَ أَخِي قَالَ أُخْبِرْتُ أَنَّهُ يَسُبُّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ لَئِنْ رَأَيْتُهُ لاَ يُفَارِقُ سَوَادِي سَوَادَهُ حَتَّى يَمُوتَ الأَعْجَلُ مِنَّا. فَتَعَجَّبْتُ لِذَلِكَ، فَغَمَزَنِي الآخَرُ فَقَالَ لِي مِثْلَهَا، فَلَمْ أَنْشَبْ أَنْ نَظَرْتُ إِلَى أَبِي جَهْلٍ يَجُولُ فِي النَّاسِ، قُلْتُ أَلاَ إِنَّ هَذَا صَاحِبُكُمَا الَّذِي سَأَلْتُمَانِي. فَابْتَدَرَاهُ بِسَيْفَيْهِمَا فَضَرَبَاهُ حَتَّى قَتَلاَهُ، ثُمَّ انْصَرَفَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرَاهُ فَقَالَ أَيُّكُمَا قَتَلَهُ. قَالَ كُلُّ وَاحِدٍ مِنْهُمَا أَنَا قَتَلْتُهُ. فَقَالَ هَلْ مَسَحْتُمَا سَيْفَيْكُمَا. قَالاَ لاَ. فَنَظَرَ فِي السَّيْفَيْنِ فَقَالَ كِلاَكُمَا قَتَلَهُ. سَلَبُهُ لِمُعَاذِ بْنِ عَمْرِو بْنِ الْجَمُوحِ. وَكَانَا مُعَاذُ ابْنَ عَفْرَاءَ وَمُعَاذَ بْنَ عَمْرِو بْنِ الْجَمُوحِ. قَالَ مُحَمَّدٌ سَمِعَ يُوسُفَ صَالِحًا وَإِبْرَاهِيمَ أَبَاهُ (عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَوْفٍ)

訳：

アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه は言った。**バドルの日、隊列に立っていた私が右と左を見ると、アンサールの年若い二人の若者の間にいた。私はもっと強い者たちの間にいればよかったのにと思った。すると一人が私をつついて言った。「おじさん、アブー・ジャフルを知っていますか。」私は答えた。「ああ。甥よ、かれに何の用だ。」かれは言った。「かれがアッラーの使徒 ﷺ を罵っていると聞きました。私の魂をその御手に握られる方にかけて、もしかれを見たら、どちらか先に死ぬ定めの者が**

死ぬまで、私の体はかれの体から離れません。」私はその言葉に驚いた。するともう一人も私をつついて同じことを言った。間もなく私は、アブー・ジャフルが人びとの間をうろついているのを見て言った。「あれがおまえたちの尋ねていた男だ。」**二人はすぐに剣でかれに襲いかかり、かれを討ち取った。**そしてアッラーの使徒 ﷺ のもとに戻って報告した。アッラーの使徒は尋ねられた。**「おまえたちのどちらがかれを殺したのか。」**二人はそれぞれ「私が殺しました」と言った。アッラーの使徒は尋ねられた。**「剣はもうぬぐったか。」**二人は「いいえ」と答えた。アッラーの使徒は二本の剣を見て言われた。**「おまえたち二人がかれを殺したのだ。」**その二人の若者は**ムアーズ・ブン・アフラー**と**ムアーズ・ブン・アムル・ブン・アル＝ジャムーフ**であった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← ユースフ・ブン・アル＝マージシューン ← サーリフ・ブン・イブラーヒーム・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ ← その父（イブラーヒーム） ← その祖父（アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ） رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、ハディース第 3141 番。ムスリム（第 1752 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3141

愛：アッラーの使徒ﷺ

二人の若者はアブー・ジャフルを見たことがありませんでした。しかしかれが**アッラーの使徒**ﷺを罵っていると聞いただけで、決意するには十分だったのです。経験豊かな教友アブドゥッラフマーンは、初めは二人の若者の間に立つことに心もとなさを感じていましたが、やがてその勇気に**感嘆しました**。

アッラーの使徒ﷺは判断を下す前に**二本の剣**を調べ、「**おまえたち二人がかれを殺したのだ**」と言われました。どちらも失望させず、証拠に基づいて判断されたのです。教訓：心がアッラーとその使徒への愛で満たされる時、**若者たち**は共同体の勇士となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この共同体のファラオの最期

二人の若者がアブー・ジャフルに斬りつけた後、アッラーの使徒 ﷺ は、イスラームの最も激しい敵の最期を確かめようとされました。アナス رضى الله عنه が伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3962 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ التَّيْمِيُّ، أَنَّ أَنَسًا، حَدَّثَهُمْ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم ح وَحَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ خَالِدٍ حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ عَنْ سُلَيْمَانَ التَّيْمِيِّ عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ يَنْظُرُ مَا صَنَعَ أَبُو جَهْلٍ فَانْطَلَقَ ابْنُ مَسْعُودٍ، فَوَجَدَهُ قَدْ ضَرَبَهُ ابْنَا عَفْرَاءَ حَتَّى بَرَدَ قَالَ أَأَنْتَ أَبُو جَهْلٍ قَالَ فَأَخَذَ بِلِحْيَتِهِ. قَالَ وَهَلْ فَوْقَ رَجُلٍ قَتَلْتُمُوهُ أَوْ رَجُلٍ قَتَلَهُ قَوْمُهُ؟ قَالَ أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ أَنْتَ أَبُو جَهْلٍ؟

訳：

アナス رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は言われた。「**アブー・ジャフルがどうなったか、誰か見てきてくれないか。**」イブン・マスウードが行くと、アフラーの二人の息子がかれに斬りつけ、かれは瀕死の状態であった。イブン・マスウードはかれのあごひげをつかんで言った。「**おまえがアブー・ジャフルか。**」かれは答えた。「**自分の部族の者に殺される男以上に高貴な男がいようか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーは二つの経路で伝える：アフマド・ブン・ユーヌスとアムル・ブン・ハーリド ← いずれもズハイル ← スライマーン・アッ＝タイミー ← アナス رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アブー・ジャフルの殺害の章、ハディース第 3962 番。ムスリム（第 1800 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3962

最期の息まで傲慢に

アブー・ジャフル――本名**アムル・ブン・ヒシャーム**――は長年マッカでムスリムを迫害しました。スィーラ書によれば、イスラーム最初の女性殉教者**スマイヤ**を殺したのはかれであり、隊商が無事だったにもかかわらずクライシュ族に出陣を迫ったのもかれでした。死の瞬間でさえ、かれはなお**誇っていました**。自分の部族の者に殺されるのは恥ではないというのです。

かれを見つけたのは**アブドゥッラー・ブン・マスウード**でした。かつての羊飼いで体の小さなかれは、カアバのそばで声高にクルアーンを読んだために殴られたこともありました。アッラーは共同体に、**高貴さは家柄や財産にあるのではなく**、信仰にあることを示されたのです。

ビラールとウマイヤ・ブン・ハラフ

ウマイヤ・ブン・ハラフは、かつてマッカの砂漠で**ビラール・ブン・ラバーフ**を拷問し、照りつける太陽の下でその胸に大きな岩を載せた主人です。ビラールはただ「**アハド、アハド**」（唯一なる御方）と繰り返していました。

アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه は、マッカとマディーナで互いの財産を守り合う**約束**をウマイヤと交わしていました。バドルの日、人びとが眠っている時、アブドゥッラフマーンはウマイヤを守ろうと出て行きました。**ビラールがウマイヤを見つけ**、アンサールの一団に呼びかけました。「**ウマイヤ・ブン・ハラフだ！かれが生き延びたら、私は破滅だ！**」かれらはウマイヤを追い、アブドゥッラフマーンがかばおうとしたにもかかわらず、ウマイヤは討たれました（『サヒーフ・ブハーリー』2301）。

第2章のサアド・ブン・ムアーズのハディースが、ここで現実となりました。マッカから出ることをあれほど恐れたウマイヤは、告げられた通り、ついに**バドルで討たれた**のです。

かつてマッカで	バドルで
拷問される奴隷のビラール	自由で尊敬されるムスリムのビラール
権力を持つ主人のウマイヤ	敗北の中で討たれたウマイヤ
岩の下での「アハド、アハド」	アッラーの約束の真実

教訓：アッラーは不正を忘れず、忍耐を無駄にされません。何年かかろうとも、**かれの正義**は必ず訪れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの殉教者たち

バドルの勝利は血によってあがなわれました。スィーラ書によれば、**十四人**の教友が殉教しました。ムハージルーンから六人、アンサールから八人です。

集団	殉教者の一部（スィーラ書）
ムハージルーン（6）	ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス、ウマイル・ブン・アビー・ワッカース（サアドの弟）、ミフジャウ（ウマルが解放した奴隷）ほか
アンサール（8）	ウマイル・ブン・アル＝フマーム、ハーリサ・ブン・スラーカ、アウフとムアウウィズ（アフラーの息子たち）ほか

ウンム・ハーリサとフィルダウスの楽園

ハーリサ・ブン・スラーカはアンサールの若者で、バドルの日に**流れ矢**に当たって亡くなりました。母の**ウンム・ハーリサ**はアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て尋ねました。「アッラーの預言者よ、ハーリサのことを教えてください。もしあの子が楽園にいるなら、私は耐えます。そうでなければ、思いきり泣きましょう。」アッラーの使徒は言われました。**「ウンム・ハーリサよ、楽園には多くの園がある。あなたの息子は最高のフィルダウスを得たのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2809）。

教訓：信仰ある母は、息子が**どのように**死んだかではなく、**どこへ**行ったかを尋ねました。殉教は死に方で測られるものではありません。流れ矢でさえフィルダウスへ導きうるのです。

バドルの井戸のほとりで

戦いの後、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを驚かせることをなさいました。アブー・タルハ رضى الله عنه がこう語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3976 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، سَمِعَ رَوْحَ بْنَ عُبَادَةَ، حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ أَبِي عَرُوبَةَ، عَنْ قَتَادَةَ، قَالَ ذَكَرَ لَنَا أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ عَنْ أَبِي طَلْحَةَ، أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَرَ يَوْمَ بَدْرٍ بِأَرْبَعَةٍ وَعِشْرِينَ رَجُلاً مِنْ صَنَادِيدِ قُرَيْشٍ فَقُذِفُوا فِي طَوِيٍّ مِنْ أَطْوَاءِ بَدْرٍ خَبِيثٍ مُخْبِثٍ، وَكَانَ إِذَا ظَهَرَ عَلَى قَوْمٍ أَقَامَ بِالْعَرْصَةِ ثَلاَثَ لَيَالٍ، فَلَمَّا كَانَ بِبَدْرٍ الْيَوْمَ الثَّالِثَ، أَمَرَ بِرَاحِلَتِهِ فَشُدَّ عَلَيْهَا رَحْلُهَا، ثُمَّ مَشَى وَاتَّبَعَهُ أَصْحَابُهُ وَقَالُوا مَا نُرَى يَنْطَلِقُ إِلاَّ لِبَعْضِ حَاجَتِهِ، حَتَّى قَامَ عَلَى شَفَةِ الرَّكِيِّ، فَجَعَلَ يُنَادِيهِمْ بِأَسْمَائِهِمْ وَأَسْمَاءِ آبَائِهِمْ يَا فُلاَنُ بْنَ فُلاَنٍ، وَيَا فُلاَنُ بْنَ فُلاَنٍ، أَيَسُرُّكُمْ أَنَّكُمْ أَطَعْتُمُ اللَّهَ وَرَسُولَهُ فَإِنَّا قَدْ وَجَدْنَا مَا وَعَدَنَا رَبُّنَا حَقًّا، فَهَلْ وَجَدْتُمْ مَا وَعَدَ رَبُّكُمْ حَقًّا. قَالَ فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، مَا تُكَلِّمُ مِنْ أَجْسَادٍ لاَ أَرْوَاحَ لَهَا فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالَّذِي نَفْسُ مُحَمَّدٍ بِيَدِهِ، مَا أَنْتُمْ بِأَسْمَعَ لِمَا أَقُولُ مِنْهُمْ. قَالَ قَتَادَةُ أَحْيَاهُمُ اللَّهُ حَتَّى أَسْمَعَهُمْ قَوْلَهُ تَوْبِيخًا وَتَصْغِيرًا وَنَقِيمَةً وَحَسْرَةً وَنَدَمًا.

訳：

アブー・タルハ رضى الله عنه によれば、**バドルの日、アッラーの預言者 ﷺ は、クライシュ族の指導者二十四人をバドルの汚れた井戸の一つに投げ込むよう命じられた。**ある民に勝利した時、アッラーの使徒はその地に三晩とどまるのが常であった。三日目、かれはラクダに鞍を置くよう命じ、教友たちを従えて歩き、その井戸のふちに立って、かれらの名と父の名で呼びかけられた。**「某の子某よ、某の子某よ！アッラーとその使徒に従っていたら、おまえたちにとってその方がうれしかったのではないか。われわれは、主が約束されたことを真実と知った。おまえたちは、おまえたちの主が約束したことを真実と知ったか。」**ウマルは言った。「アッラーの使徒よ、魂のない体に話しかけておら

れるのですか。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**ムハンマドの魂をその御手に握られる方にかけて、私の言うことを、おまえたちはかれら以上によく聞いているわけではない。**」カターダは言った。アッラーはかれらを生き返らせ、アッラーの使徒の言葉を聞かせられたのである。叱責、屈辱、報い、損失、そして後悔として。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ラウフ・ブン・ウバーダ ← サイード・ブン・アビー・アルーバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク ← アブー・タルハ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アブー・ジャフルの殺害の章、ハディース第 3976 番。ムスリム（第 2875 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3976

「おまえたちはかれら以上によく聞いているわけではない」

井戸に投げ込まれた指導者たちが、かつて**嘘つき呼ばわりし、迫害し、追放した**相手、それがアッラーの使徒 ﷺ でした。アッラーの使徒が一人ひとりに呼びかけたのは、勝ち誇るためではなく、**アッラーの約束の真実**を告げるためでした。カターダによれば、アッラーはかれらを生き返らせ、屈辱と後悔としてアッラーの使徒の言葉を聞かせられたのです。

アッラーの使徒はまた、いつものように勝利の後**三晩**戦場にとどまられました。これは急がない指導者の落ち着きを示すとともに、殉教者を葬り、捕虜を扱うための時間ともなりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

捕虜と身代金

バドルの日、クライシュ族は**七十人**が殺され、**七十人**が捕虜となりました（『サヒーフ・ブハーリー』3039）。ムスリム 1763 のハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が捕虜についてアブー・バクルとウマルに**相談された**ことを伝えています。アブー・バクルは、かれらは親族であり、アッラーがかれらを導かれるかもしれないとして**身代金**を提案しました。ウマルは、かれらは不信仰の指導者であるとして処刑を提案しました。アッラーの使徒はアブー・バクルの意見を選ばれ、次の節が下されました。

「預言者は、地上で（敵を）完全に打ち破るまでは、捕虜を取るべきではない」『タフスィール・イブン・カスィール』8:67。

しかしアッラーはその後、身代金を許されました。**「だからあなたがたの得た戦利品の中から、合法で良いものを食べなさい」**（戦利品章 8:69）。スィーラ書によれば、捕虜の多くは後に**イスラームに入りました**。アッラーの使徒 ﷺ のおじアッバースもその一人です。

スィーラの注：読み書きを教えることによる身代金

イブン・アッバースによれば、バドルの捕虜のうち身代金を払う**財産のない**者たちは、**アンサールの子ども十人に書くことを教える**よう求められ、それを終えると解放されました。この伝承は『**ムスナド・アフマド**』にあり、一部の学者はハサンと評価しています。

これは、イスラームが初めから**知識**をどれほど重んじていたかを示しています。読み書きの力が自由の代価とされたのです。

参照：

『ムスナド・アフマド』（イブン・アッバースの伝承）；ウィキペディア「Battle of Badr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：46 / 80

戦利品も教友たちの間で意見の違いを生みました。そこでアッラーは定められました。「**戦利品はアッラーと使徒のものである**」――そして互いの関係を正すよう命じられました『タフスィール・イブン・カスィール』8:1。

バドルの民の位置

バドルの民は**特別な位置**にあり、天においてさえ知られていました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3992 番

حَدَّثَنِي إِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، أَخْبَرَنَا جَرِيرٌ، عَنْ يَحْيَى بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ مُعَاذِ بْنِ رِفَاعَةَ بْنِ رَافِعٍ الزُّرَقِيِّ، عَنْ أَبِيهِ ـ وَكَانَ أَبُوهُ مِنْ أَهْلِ بَدْرٍ ـ قَالَ جَاءَ جِبْرِيلُ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا تَعُدُّونَ أَهْلَ بَدْرٍ فِيكُمْ قَالَ مِنْ أَفْضَلِ الْمُسْلِمِينَ ـ أَوْ كَلِمَةً نَحْوَهَا ـ قَالَ وَكَذَلِكَ مَنْ شَهِدَ بَدْرًا مِنَ الْمَلاَئِكَةِ.

訳：

ムアーズ・ブン・リファーア・ブン・ラーフィウが、バドルの民の一人であった父から伝えて言った。**ジブリールが預言者 ﷺ のもとに来て尋ねた。「あなたがたの中で、バドルの民をどのように見ていますか。」預言者は答えられた。「ムスリムの中で最も優れた者たちだ」――あるいはそれに似た言葉を。ジブリールは言った。「バドルに参加した天使たちも同様です。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール ← ヤフヤー・ブン・サイード ← ムアーズ・ブン・リファーア・ブン・ラーフィウ・アッ＝ズラキー ← その父（リファーア・ブン・ラーフィウ）رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルに参加した天使の章、ハディース第 3992 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3992

「アッラーはバドルの民を見られた」

何年も後、バドルの民の一人**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**が、誤ってクライシュ族に秘密の手紙を送りました。ウマルはかれを罰しようとしました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。**「かれはバドルに参加した。おまえは知っているか。**

アッラーはバドルの民をご覧になって、『好きなようにせよ、わたしはあなたがたを赦した』と言われたのかもしれないのだ。」ウマルは泣き、「アッラーとその使徒が最もよくご存じです」と言いました（『サヒーフ・ブハーリー』3983）。

学者たちは、これは罪を犯す許可ではなく、かれらへの**赦しの保証**であると説明しています。教訓：誠実な**一つの大きな行い**が、その後の過ちのとりなしとなりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

勝利の知らせ

バドルで三晩を過ごした後、アッラーの使徒 ﷺ は捕虜と戦利品を伴ってマディーナに帰られました。スィーラ書は、勝利の知らせがどのように広まったかを語っています。

スィーラの注：マディーナへの吉報

アッラーの使徒 ﷺ は、**ザイド・ブン・ハーリサ**と**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ**を軍に先立って送り、マディーナの人びとに勝利を知らせました。ウサーマ・ブン・ザイドによれば、その知らせが届いたのは、人びとが**ルカイヤの埋葬を終えたばかり**の時でした。アッラーの使徒 ﷺ の娘であり、ウスマーンの妻です。

マディーナの偽信者とユダヤ教徒は、初めはその知らせを信じませんでした。クライシュ族の捕虜たちが連れて来られるのを自分の目で見るまでは。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』バドルの戦いの章。

この話は第6章の真正なハディースと一致します。ウスマーンは病気のルカイヤを看病するためマディーナに残り、アッラーの使徒 ﷺ はかれにバドルの民と同じ**報奨と分け前**があると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』3130）。勝利の喜びは、喪失の悲しみと入り混じっていたのです。

スィーラの注：マッカへの悲報

一方マッカでは、敗北の知らせが**衝撃**をもって受け止められました。スィーラ書によれば、最初に知らせをもたらしたのは**ハイスマーン・ブン・アブドゥッラー・アル＝フザーイー**で、討たれた指導者の名を一人ずつ挙げました。バドルに参加しなかった**アブー・ラハブ**は、数日後に病で死にました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

クライシュ族は、ムスリムが自分たちの悲しみを見て喜ばないよう嘆き悲しむことを禁じ、復讐を誓ったと言われます。その誓いが一年後の**ウフドの戦い**へとつながるのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ウィキペディア「Battle of Badr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

捕虜たちへの希望

アッラーは捕虜たちに扉を閉ざされませんでした。かれの使徒に、こう告げるよう命じられたのです。「**もしアッラーが、あなたがたの心に何か善いものがあると認められれば、あなたがたから取られたものよりも良いものを与えられるであろう**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:70。

イブン・カスィールは、この節が**アッバース**――アッラーの使徒 ﷺ のおじ――に関わるものだと述べています。かれはバドルで身代金を払い、後にイスラームに入りました。教訓：今日の敵は、明日の**信仰の兄弟**となりうるのです。イスラームが戦うのは不信仰であって、人間を憎むのではありません。

バドルの物語の典拠

バドルの物語は、等級の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。本書はこの三つを区別し、読者が**何が確かで**、**何が有名な話か**を知ることができるようにしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの物語の典拠

クルアーン（6）

- 二つの一隊；隊商か軍か（8:7）
- 千の天使（8:9）
- まどろみと雨（8:11）
- 「投げたのはあなたではない」（8:17）
- 谷における位置（8:42）
- 捕虜についての戒め（8:67–69）

真正なハディース（9）

- サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ
- ターラートの軍と同じ数
- ミクダードの言葉
- アッラーの使徒の祈り；落ちた外套
- ジブリールとその馬；「進め、ハイズームよ！」
- 二人の若者とアブー・ジャフル
- バドルの井戸で語りかける
- 捕虜についての協議
- バドルの民の位置

スィーラ書（4）

- 井戸についてのフバーブの助言
- ザフィラーンでのサアド・ブン・ムアーズの言葉
- 読み書きを教えて身代金とした捕虜
- アッラーの使徒の小屋（アリーシュ）

スィーラ書の物語は、関係する章でその位置づけを説明したうえで紹介している。

図 5：本書におけるバドルの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
雨とまどろみ；千の天使；投擲	クルアーン（戦利品章 8:9、11、17）——確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
アッラーの使徒の祈り；ハイズーム；捕虜についての協議	『サヒーフ・ムスリム』1763――真正
ジブリール；二人の若者；アブー・ジャフル；井戸	『サヒーフ・ブハーリー』3995、3141、3962、3976――真正
ウマイルとナツメヤシ；ブサイサ	『サヒーフ・ムスリム』1901――真正
砂の投擲（詳細）	注釈書（イブン・カスィール）
フバーブの助言；アリーシュ；ダムダム	スィーラ書（イブン・イスハーク）――伝承経路は弱い／確かでない
書くことを教えることによる身代金	『ムスナド・アフマド』――一部の学者がハサンと評価

スィーラ書の物語が必ずしも作り話というわけではありません。信頼できるスィーラ学者たちが伝えたものです。しかしそれはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではなく**、法の根拠とはされません。本書は、イスラーイーリーヤート（イスラエルの伝承）や明らかに捏造された伝承を**含めていません**。

バドルについてのクルアーンの節

クルアーンがバドルの戦いほど詳しく語る戦いはほかにありません。戦利品章（75節）のほぼ全体がバドルの後に下され、ほかの章のいくつかの節もこれに触れています。次の表は主な節をまとめたもので、読者がこの出来事について最も確かな典拠に直接あたれるようにしています。

節	内容の要約
戦利品章 8:1	戦利品（アンファール）についての質問；答え：それはアッラーと使徒のものである。だから畏れ、互いの関係を正しなさい。
戦利品章 8:5–8	信者の一部は出陣を嫌い、武装していない隊商を望んだが、アッラーは真理を確立しようとされた。
戦利品章 8:9–12	助けを求める祈りに千の天使で応えられる；安心としてのまどろみ；清め、足を固める雨。
戦利品章 8:17	「あなたが投げた時、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられた」――一握りの砂（第 14 章）。
戦利品章 8:41–44	五分の一（フムス）の規定；フルカーンの日、両軍が出会った日；谷における両軍の位置；敵の数が少なく見せられたこと。
戦利品章 8:47–48	傲慢に出陣したクライシュ族をまねることの禁止；悪魔はかれらの行いを飾り立て、そして退いた（第 4 章）。
戦利品章 8:67–70	捕虜と身代金についての戒め；心に善いものを持つ捕虜への希望（第 20 章と第 22 章）。
イムラーン家章 3:123–127	「アッラーはバドルにおいて、あなたがたが弱かった時にあなたがたを助けられた」；天使の援軍の約束。
月章 54:45	「この群衆は敗走し、背を向けるであろう」――バドルの日にアッラーの使徒 ﷺ が唱えられた。
巡礼章 22:19	「これら二つの論争者は、主について論争する」――最初の一騎打ちについて（第 12 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

天幕から出る時に唱えられた節

ハディース：「この群衆は敗走するであろう」

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はバドルの日、天幕の中で祈られた。「アッラーよ、あなたの約束と誓約（を果たされること）を願います。アッラーよ、もしあなたが望まれるなら、今日の後、あなたは崇められなくなるでしょう。」するとアブー・バクルがかれの手を取って言った。「十分です、アッラーの使徒よ。あなたは主にひたすら願われました。」その時かれは鎖かたびらを着ておられた。かれは次のように唱えながら出て来られた。「この群衆は敗走し、背を向けるであろう。いや、審判の時こそかれらとの約束の時である。そして審判の時は、最も恐ろしく最も苦いものである。」

等級：真正––『サヒーフ・ブハーリー』4875。

月章はバドルの何年も前にマッカで下されました。この節が下された時、ムスリムはまだ弱く、虐げられていました。ウマル رضى الله عنه は、どの群衆が敗れるのだろうかと思いめぐらしていましたが、バドルの日にアッラーの使徒 ﷺ がこれを唱えるのを見て理解しました（タバリーとイブン・アビー・ハーティムが注釈書で伝える）。マッカで下された約束が、バドルで果たされたのです。

「あなたがたが弱かった時」

アッラーは言われます。「アッラーは、あなたがたがバドルで微弱であったとき、確かに助けられた。だからアッラーを畏れなさい。きっとあなたがたに感謝の念が起きるであろう。」（イムラーン家章 3:123）。この節は一年後、ウフドの後に下され、ムスリムに思い起こさせました。バドルの勝利は数や武器によるのではなく、アッラーの助けによるものだったのだと。それはまた、勝利が求めるのは感謝と畏れであって、自慢ではないことを教えています。

教訓

クルアーンは、バドルを理解するための第一の、そして最も確かな典拠です。クルアーンは、名前や数字を並べる歴史書のように戦いを語るのではありません。心を照らし出すのです。入り混じった意図、ひたむきな祈り、アッラーが下された安らぎ、そして勝利の後の試練。バドルを思いながら戦利品章を読むことで、このスィーラは私たちの内に生きたものとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦利品と戦利品章の啓示

戦いが終わると、ムスリムがこれまで直面したことのない新しい問題が生じました。戦利品をどう分けるのか。教友たちの意見は分かれました。敵を追った者はより多くの権利があると考え、アッラーの使徒 ﷺ の天幕を守った者も権利があると考え、戦利品を集めた者もまた権利があると考えたのです。クルアーンが下され、それを解決しました。

ハディース：サアド・ブン・アビー・ワッカースの剣

ムスアブ・ブン・サアドは、父サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه から、クルアーンのいくつかの節がかれ自身について下されたと伝えています。その一つはこうです。アッラーの使徒 ﷺ は多くの戦利品を得られ、その中に一振りの剣がありました。サアドはそれを取ってアッラーの使徒 ﷺ のもとに持って行き、「この剣を私にください」と言いました。アッラーの使徒は「取った所に戻しなさい」と言われました。サアドは引き返しましたが、心の中で「戦利品の集め場所に戻すのか」と思い、また戻って再び願いました。アッラーの使徒はなお「戻しなさい」と言われました。そこでアッラーは「かれらは戦利品についてあなたに問う……」（戦利品章 8:1）を下されたのです。

等級：真正――『サヒーフ・ムスリム』1748（要約）。

戦利品章の最初の節はこうです。「かれらは戦利品に就いてあなたに問う。言ってやるがいい。『戦利品はアッラーと使徒のものである。だからアッラーを畏れて、あなたがたの間の諸関係を公正に処理し、あなたがたが信者ならば、アッラーと使徒に従え。』」（戦利品章 8:1）。注目してください。アッラーは分け方を説明される前に、畏れと関係の修復を命じられました。財産が、マディーナで苦労して築かれた兄弟愛を損なってはならないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

五分の一（フムス）の規定

その後アッラーは不変の規定を定められました。「戦争で得たどんな物も、5 分の 1 は、アッラーと使徒そして近親、孤児、貧者、そして旅人に属することを知れ。もしあなたがたがアッラーを信じ、また識別の日、両軍が会戦した日に、わがしもべに啓示したものを信じるならば。本当にアッラーは凡てのことに全能であられる。」（戦利品章 8:41）。五分の一（フムス）は指導者が公益と困窮者のために管理し、残りの五分の四は戦った兵士に分配されます。

スィーラ学者によれば、バドルの戦利品はマディーナへの帰途、参加した者に平等に分けられました。アッラーの使徒 ﷺ から与えられた任務のために参加できなかった者にも分け前が与えられました。ルカイヤを看病したウスマーン・ブン・アッファーンがその例です（第 6 章、『サヒーフ・ブハーリー』3130）。イブン・イスハークによれば、隊商の偵察に送られたタルハ・ブン・ウバイディッラーとサイード・ブン・ザイドにも分け前が与えられました。

問題	クルアーンとスンナによる解決
戦利品の所有者は誰か	アッラーとその使徒が決める（8:1）――最も早く取った者ではない。
どのように分けるのか	五分の一は 8:41 に挙げられた人びとへ；残りは兵士へ。
ほかの場所で任務についていた者は	参加した者と同じ分け前と報奨が与えられる（ブハーリー 3130）。
財産よりも大切なものは何か	畏れ（タクワー）と、ムスリム同士の良い関係（8:1）。

教訓

勝利の後には、しばしば戦いよりも微妙な試練が来ます。財産の試練です。最良の世代でさえ、そのために対立しかけました。そこでアッラーは、何よりもまず畏れと兄弟愛を述べる節によってかれらを教育されたのです。私たちの組織、家庭、社

会でも同じことが起こります。公正で明確な、シャリーアに基づく分配が、心のひび割れを防ぐのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの戦場の人物たち

バドルは互いを知る二つの集団を引き合わせました。向き合った者の多くは、父と子、おじと甥、あるいはマッカでのかつての隣人でした。次の表は、本書の各章に登場する人物とその役割をまとめたものです。真正なハディースに基づく詳細にはその番号を記し、それ以外はスィーラ書（イブン・ヒシャーム、イブン・サアド、『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』）によります。

ムスリム側

人物	バドルでの役割
アッラーの使徒 ﷺ	総指揮官。天幕（アリーシュ）で祈り、自らも戦った。アリーは、アッラーの使徒が最も敵に近かったと語っている（アフマドの伝承）。
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضي الله عنه	天幕でアッラーの使徒 ﷺ と共にいた。祈るかれをなだめた（ブハーリー 4875）。
ハムザ、アリー、ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス رضي الله عنهم	最初の一騎打ちの挑戦に応じた三人。ウバイダは重傷を負い、帰途に殉教した（第 12 章）。
サアド・ブン・ムアーズ رضي الله عنه	アウス族の長。協議でのアンサールの支持の言葉（第 7 章）。スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の天幕を守った。
ミクダード・ブン・アル＝アスワド رضي الله عنه	「私たちはムーサーの民のようには言いません」という言葉（ブハーリー 3952）。ごく少数の騎兵の一人。
ムスアブ・ブン・ウマイル رضي الله عنه	スィーラ書によれば、主要な旗手。
ムアーズ・ブン・アムルとムアーズ・ブン・アフラー رضي الله عنهما	アブー・ジャフルを倒したアンサールの二人の若者（ブハーリー 3141）。
アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه	瀕死のアブー・ジャフルを見つけ、とどめを刺した（ブハーリー 3962）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	バドルでの役割
ビラール・ブン・ラバーフ رضی الله عنه	かつて自分を拷問したウマイヤ・ブン・ハラフを見つけた（ブハーリー 2301）。
ウマイル・ブン・アル＝フマーム رضی الله عنه	ナツメヤシを投げ捨て、楽園へと進んだ（ムスリム 1901）。
ハーリサ・ブン・スラーカ رضی الله عنه	矢に当たって殉教した若者。かれにはフィルダウスが（ブハーリー 2809）。
フバーブ・ブン・アル＝ムンズィル رضی الله عنه	イブン・イスハークによれば、最も近い井戸に陣取ることを提案した。この伝承の経路は弱いが、スィーラ書では有名である。

クライシュ側

人物	バドルでの結末
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	戦いを迫った指導者。討たれた（ブハーリー 3141、3962）。
ウトバとシャイバ・ブン・ラビーア	最初の一騎打ちに応じて討たれた。ウトバはそれ以前、クライシュ族に引き返すよう助言していた（スィーラ書）。
ワリード・ブン・ウトバ	最初の一騎打ちで討たれた。
ウマイヤ・ブン・ハラフ	討たれた――サアド・ブン・ムアーズがマッカで告げていた通りに（ブハーリー 3950、2301）。
ウクバ・ブン・アビー・ムアイトとナドル・ブン・アル＝ハーリス	捕虜となり、マッカでの重い罪と敵対のため、帰途に処刑された（スィーラ書）。
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	隊商の長。海岸の道を通って隊商を逃れさせ、戦場にはいなかった。息子ハンザラは討たれた。
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	アッラーの使徒 ﷺ のおじ。捕虜となり（ブハーリー 3008）、後に身代金を払った。

人物	バドルでの結末
アブー・アル＝アース・ブン・アッ＝ラビーウ	アッラーの使徒 ﷺ の娘婿（ザイナブの夫）。捕虜となった（アブー・ダーウード 2692）。
スハイル・ブン・アムル	捕虜となり、身代金で解放された。後にフダイビヤでのクライシュ族の交渉役となる（第 15 巻）。

教訓

これらの名は、バドルが二つの民族の衝突ではなく、一つの民の中の二つの道の衝突であったことを思い起こさせます。クライシュ側には後にイスラームに入った者（アッバース、アブー・アル＝アース、スハイル・ブン・アムル）もいれば、傲慢のまま死んだ者もいました。導きの扉は最後の息まで開かれています。だから私たちは誰に対しても絶望しないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

捕虜の陰にある家族の物語

第 20 章では、捕虜についての協議と身代金を受け入れる決定を語りました。七十人の捕虜という数字の陰には、心を打つ家族の物語がありました。捕虜の多くは、アッラーの使徒 ﷺ や教友たち自身の親族だったからです。

ハディージャの首飾り

ハディース：アブー・アル＝アースの身代金

アーイシャ رضى الله عنها は言った。マッカの人びとが捕虜の身代金を送った時、ザイナブ（アッラーの使徒 ﷺ の娘）は（夫）アブー・アル＝アースの身代金として財産を送った。その中に、もとはハディージャのもので、ザイナブがアブー・アル＝アースと結婚した時に母から贈られた首飾りがあった。アッラーの使徒 ﷺ はその首飾りを見ると、ひどく心を動かされて言われた。「もしあなたがたが、彼女の捕虜を解放し、彼女の財産を返してよいと思うなら（そうしなさい）。」人びとは「はい」と答えた。アッラーの使徒 ﷺ は、ザイナブを自分のもとに来させるようアブー・アル＝アースに約束させた。そしてアッラーの使徒 ﷺ はザイド・ブン・ハーリサとアンサールの一人の男を送り、言われた。「バトン・ヤアジャジで、ザイナブがあなたがたのそばを通るまで待ちなさい。そして彼女を（マディーナへ）連れて来るまで付き添いなさい。」

等級：ハサン（良好）――『スナン・アブー・ダーウード』2692。アルバーニーがハサンと評価。

最愛の亡き妻ハディージャ رضى الله عنها の首飾りを、教友たちの手の中に見た父の気持ちを想像してみてください。それは、敵側にいる夫の身代金として娘が送ったものでした。それでもアッラーの使徒は自分の権限で捕虜を解放されませんでした。身代金は教友たちの権利であったため、かれらの同意を求められたのです。アブー・アル＝アースは約束を守り、数年後には自らもイスラームに入ってヒジュラしました。

アッバースのための服

ハディース：服のないアッバース

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った。バドルの日、捕虜たちが連れて来られたが、アッバースは服を着ていなかった。預言者 ﷺ はかれのために服を探され、アブドゥッラー・ブン・ウバイの服がかれの体に合うことが分かったので、預言者 ﷺ はそれをかれに着せられた。そのため、預言者 ﷺ は（アブドゥッラー・ブン・ウバイが死んだ時）自分の服を脱いでかれに着せられたのである。

等級：真正――『サヒーフ・ブハーリー』3008。

アッバースはアッラーの使徒 ﷺ のおじで、甥が守られるよう確かめるためにアカバの誓い（第6巻）に立ち会いましたが、バドルの日にはクライシュ族の隊列にいました。イマーム・ブハーリーはこのハディースを「捕虜のための衣服」の章に置いています。捕虜は、たとえ敵であっても衣服を与えられ、尊厳をもって扱われるのです。この話はまた、アッラーの使徒 ﷺ が恩に報いる方であったことを示しています。後に偽信者の頭となったアブドゥッラー・ブン・ウバイに対してさえも。

親族の中のほかの捕虜

スィーラ書によれば、ほかの捕虜にはアキール・ブン・アビー・ターリブ（アリーの兄）やナウファル・ブン・アル＝ハーリス（アッラーの使徒 ﷺ のいとこ）がいました。ムスアブ・ブン・ウマイルの実の兄弟アブー・アズィーズ・ブン・ウマイルも捕虜となりました。イブン・イスハークによれば、ムスアブはかれを捕らえたアンサールの教友に、母は裕福で身代金を払えるから、しっかり縛っておくよう言ったといいます。この話はスィーラ書では有名ですが、真正なハディース集には見られません。

教訓

バドルは信仰によって家族を分けましたが、愛情と礼節を消し去りはしませんでした。アッラーの使徒 ﷺ はハディージャの首飾りに心を動かされ、おじに服を着せ、娘婿を解放する前に教友たちの許しを求められました。たった今戦ったばかりの相手に対してさえ、正義と慈悲と尊厳は守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月の年表

次の表は、バドルの出来事を順に並べたものです。日付はスィーラ書によるもので、典拠によって多少の違いがあります。最も有名なのは、戦いがヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日金曜日（624 年 3 月ごろ）に行われたとする説です。

時期	出来事
ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月初め	シャームから戻るアブー・スフヤーンの大隊商の知らせがマディーナに届く（第 3 章）。
ラマダーン月 8〜12 日ごろ	アッラーの使徒 ﷺ が約 313 人、ラクダ 70 頭、ごくわずかな馬で出発；ウスマーンはルカイヤの看病のため残る（第 5〜6 章）。正確な日付は典拠により異なる。
同じころ	アブー・スフヤーンがダムダム・ブン・アムル・アル＝ギファーリーをマッカへ送り援軍を求める；クライシュ族が約千人で出陣（第 4 章）。
旅の途中	アブー・スフヤーンが隊商を海岸の道に移し、クライシュ族に帰るよう伝える；アブー・ジャフルは進軍を主張。スィーラ書によれば、ズフラ族はアフナス・ブン・シャリークと共に引き返した。
ザフィラーンにて	協議：ミクダードとサアド・ブン・ムアーズの言葉；クライシュ軍と対決する決定（第 7 章）。
ラマダーン月 17 日の前夜	バドルに到着；雨が降り、ムスリムは安らぎのまどろみに包まれる（第 8〜9 章）。
ラマダーン月 17 日金曜日の朝	天幕でのアッラーの使徒 ﷺ の祈り；最初の一騎打ち；戦闘；一握りの砂；天使の降下（第 10〜14 章）。
同じ日	アブー・ジャフルとクライシュの指導者たちが討たれる；70 人が討たれ 70 人が捕虜に；スィーラ書によれば教友 14 人が殉教（第 15〜18 章）。
その後の三晩	アッラーの使徒 ﷺ がバドルにとどまる；井戸のほとりで語りかける（第 19 章、ブハーリー 3976）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事
帰途	戦利品の分配；ウクバとナドルの処刑；ザイド・ブン・ハーリサとアブドゥッラー・ブン・ラワーハが先に吉報を運ぶ（第 22 章）。
知らせがマディーナに届く	アッラーの使徒 ﷺ の娘ルカイヤが埋葬されたばかりであった（第 6 章）。
マッカにて	敗北の知らせが届く；アブー・ラハブが数日後に死ぬ（第 22 章）。
ヒジュラ暦 2 年シャウワール月以降	クライシュ族の使者たちが捕虜の身代金を払いに来る；ザイナブがマディーナへヒジュラ（第 27 章）。

教訓

およそひと月の間に、状況は一変しました。隊商を追って出発したところから、三倍の軍と向き合うことになり、そして審判の日まで記憶される勝利へ。人間の計画とアッラーの計画は必ずしも同じではなく、アッラーはしもべのために最善を選ばれるのです（8:7）。

バドルの戦いについてよくある質問

1. バドルの戦いはいつ起こったのですか。

最も有名な説（イブン・イスハークと大多数のスィーラ学者）によれば、ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日金曜日、624 年 3 月ごろです。ラマダーン月 19 日とする伝承もあります。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

ムスリムは「三百十数人」で、ターラートの軍の数と同じでした（『サヒーフ・ブハーリー』3957）。ウマル رضى الله عنه は、多神教徒が千人、教友が 319 人だったと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1763）。

3. 両軍の犠牲者はどれくらいでしたか。

バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、バドルの日にムスリムが多神教徒の七十人を討ち、七十人を捕虜にしたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3986）。ムスリム側については、スィーラ書が 14 人の殉教者を挙げています。ムハージルーン 6 人、アンサール 8 人です（第 18 章）。

4. 降りてきた天使の数はどれくらいですか。

戦利品章 8:9 は「次々に来る千の天使」と述べています。イムラーン家章 3:124–125 は、忍耐と畏れを条件に三千と五千を述べています。注釈学者の意見は分かれています。イムラーン家章の節もバドルについてのもの（援軍が増やされた）とする者もいれば、条件が満たされなかったため果たされなかったウフドについての約束とする者もいます。イブン・カスィールは両方の意見を伝えています。確かなのは、戦利品章に基づくバドルでの千の天使です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. イブリースがスラーカ・ブン・マーリクの姿で来たというのは本当ですか。

戦利品章 8:48 は、悪魔がクライシュ族の行いを飾り立て「あなたがたに勝てる者はいない」と言い、天使を見ると退いたと述べています。悪魔がスラーカ・ブン・マーリクの姿をとったという話は、イブン・カスィールが伝える注釈書の伝承（イブン・アッバースほか）によるもので、その伝承経路には異論があります。節の内容そのものは確かですが、スラーカの姿についての詳細は真正なハディースと同じ等級ではありません（第 4 章参照）。

6. ウッカーシャ・ブン・ミフサンの剣が木から鉄に変わったというのは本当ですか。

この話はイブン・イスハークが連続した伝承経路なしに伝えているものです。『サヒーフ・ブハーリー』にも『サヒーフ・ムスリム』にも見られないため、**弱い伝承**であり、確かなこととは言えません。

7. なぜバドルは「ヤウム・アル＝フルカーン」と呼ばれるのですか。

アッラーが戦利品章 8:41 でそう名付けられたからです。「.....識別の日、両軍が出会った日に」。フルカーンとは分けるものという意味です。その日は真理と虚偽をはっきりと分けたのです。

8. バドルの戦いの時、ムスリムは斎戒していたのですか。

バドルは、斎戒が義務とされた後の最初のラマダーンに起こりました。ティルミズィーに、ウマルからの伝承として、かれらがバドルの日とマッカ征服の日に斎戒を解いたというものがありますが、その経路は**弱い**ものです。真正なのは、アッラーの使徒 ﷺ がマッカ征服への道中で斎戒を解かれたことです（『サヒーフ・ブハーリー』1944）。旅人と戦う者は、雌牛章 2:184 に基づいて斎戒を解くことが許されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

9. アブー・ジャフルを殺したのは誰ですか。

アンサールの二人の若者、ムアーズ・ブン・アムル・ブン・アル＝ジャムーフとムアーズ・ブン・アフラーがかれを倒し（『サヒーフ・ブハーリー』3141）、アブドゥッラー・ブン・マスウードが瀕死のかれを見つけてとどめを刺しました（『サヒーフ・ブハーリー』3962）。第 15〜16 章を参照してください。

10. バドルの民は罪から自由なのですか。

「アッラーはバドルの民を見られ、『好きなようにせよ、わたしはあなたがたを赦した』と言われた」というハディース（第 21 章）は、かれらの非常に高い位置を示しています。学者たちは、これは罪を犯す許可ではなく、アッラーがかれらを赦されるという吉報だと説明しています。実際、バドルの民は最も熱心に崇拝し、最もアッラーを畏れる人びとでした。

11. わずかなラクダで、ムスリムはどのようにバドルへ向かったのですか。

スィーラ書によれば、かれらはおよそ 70 頭のラクダしか持っていなかったので、二人か三人が交代で一頭に乗りました。イマーム・アフマドはイブン・マスウードから、アッラーの使徒 ﷺ ご自身がアリーとアブー・ルバーバと交代で乗っていたと伝えています。二人がアッラーの使徒が乗り続けられるよう自分たちが歩くと申し出ると、アッラーの使徒は答えられました。「あなたがた二人は私より強くはない。私もあなたがた二人以上に報奨を必要としていないわけではない。」

12. バドルの戦場は今どこにありますか。

バドルはサウジアラビアのマディーナ州にある町で、マディーナ市の南西約 150km、紅海沿岸へ向かう古い道の近くにあります。バドルの殉教者の墓地は囲まれており、地元の人びとに知られています。ウィキペディア「Battle of Badr」と第 8 章の地図を参照してください。

教訓

バドルには、クルアーンと真正なハディースの中に本当に驚くべき物語が満ちています。だから、それを讃えるために弱い話は必要ありません。真正なものと弱いものを区別することは、アッラーの使徒 ﷺ のスィーラを伝える責任の一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

アッラーは後にウフドで、ムスリムに思い起こさせられました。「**アッラーはバドルにおいて、あなたがたが弱かった時に、あなたがたを助けられた**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:123。

教訓	バドルから
アッラーからの勝利	三百人余りが千人を破った（3:123；8:17）
祈りと努力	アッラーの使徒は夜通し祈り、隊列を整えた
協議（シューラー）	戦いの前と捕虜についての協議
共同体の若者	アフラーの二人の息子；ウマイル・ブン・アル＝フマーム
アッラーの正義	アブー・ジャフルとウマイヤが最期を迎えた
知識の価値	捕虜は書くことを教えて身代金とした
フルカーンの日	真理と虚偽を分ける日（8:41）

クルアーンはバドルの日を「**フルカーンの日**」――分ける日（戦利品章 8:41）と名付けています。バドル以前、ムスリムは虐げられた小さな集団でした。バドル以後、かれらはアラビア半島で**一目置かれる勢力**となりました。しかしアッラーはその勝利を数や武器に帰されたのではなく、**信仰と忍耐と御自身の助け**に帰されたのです。

私たちの生活の中のバドル

私たちはもうバドルの谷に立ってはいません。しかし、すべてのムスリムは自分自身の小さな「**バドル**」を経験します。真理が弱く見え、虚偽が強く見える時です。その時、バドルの教えはこうです。**できる限りの準備をし**、**協議し**、そして心を込めて**祈る**ことです。アッラーの使徒 ﷺ がバドルの空の下で祈られたように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：73 / 80

バドルはまた、ムアーズとムアウウィズ、ウマイル・ブン・アル＝フマーム、ウマイル・ブン・アビー・ワッカースのような**若者たち**が、大きな責任を担えることを教えています。今日の親と教師は、かれらのようにアッラーとその使徒を愛する世代を育てる務めを受け継いでいるのです。

最後に、バドルは**勝利の後の謙虚さ**を教えています。アッラーは、かれらの最大の成功の直後に、捕虜と戦利品について戒められました。心が現世に心を奪われないようにするためです。本当の勝利とは、アッラーが満足されることなのです。

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**ウフドの戦い**（第10巻）へと続きます。勝利の後の試練と、服従についての教えです。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（戦利品章 8:1–69；イムラーン家章 3:123；巡礼章 22:19、39；月章 54:45）。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/17

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2301、2809、3039、3130、3141、3950、3952、3953、3956、3957、3962、3965、3966、3976、3983、3992、3995。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1763、1779、1901。https://sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――大バドルの戦いの章。

アフマド・ブン・ハンバル『アル＝ムスナド』（書くことを教える身代金についてのイブン・アッバースの伝承）。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――バドルの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』――遠征の書。

ウィキペディア「Battle of Badr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

ウィキペディア「Abu Jahl」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Jahl

ウィキペディア「Umayya ibn Khalaf」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umayya_ibn_Khalaf

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4875（バドルの日の月章 54:45）。https://sunnah.com/bukhari:4875

『サヒーフ・ムスリム』1748（サアドの剣と戦利品章 8:1）。https://sunnah.com/muslim:1748

『スナン・アブー・ダーウード』2692（ハディージャの首飾り）。https://sunnah.com/abudawud:2692

『サヒーフ・ブハーリー』3008（アッバースのための服）。https://sunnah.com/bukhari:3008

『サヒーフ・ブハーリー』3986（七十人が討たれ、七十人が捕虜に）。https://sunnah.com/bukhari:3986

『サヒーフ・ブハーリー』3130（ウスマーンの分け前）。https://sunnah.com/bukhari:3130

イブン・カスィール『タフスィール』8:1。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/1

イブン・カスィール『タフスィール』3:124。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/124

ウィキペディア「Battle of Badr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

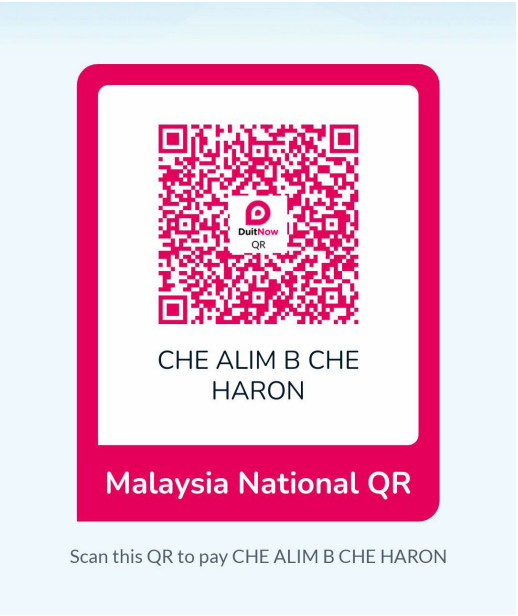
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience